

うずめ劇場 20 周年記念
「アントニーとクレオパトラ」

オリジナル・ガイドブック




原作：プルターク「英雄伝」

翻訳：ペーター・ゲスナー

挿画：棚橋なもしろ

構成・執筆・編集：藤澤友



うずめ劇場 20周年記念
「アントニーとクレオパトラ」オリジナル・ガイドブック

2016. 9. 20.

編集：藤澤友

発行：うずめ劇場

<http://uzumenet.com/>

うずめ劇場を生んでくれた、北九州のあたたかさへ。
感謝をこめて。

こんにちは！ ペーター・ゲスナーです。

私たちの新しい公演に興味を持ってくれて、ありがとうございます。

「アントニーとクレオパトラ」は、シェイクスピアの作品の中で、一番有名というわけではありませんね。しかし、すごく現代にフィットする、面白くて考えられる作品です。

そのままで見に来てもらっても楽しいですが、古代ローマのキャラクターたちについて少しだけ知っていると、シェイクスピアが何を考えていたか、もっと分かって面白いですよ。

このガイドブックは、古代ローマの歴史家プルタークが書いた、「英雄伝」という本の、一部のストーリーを紹介するものです。シェイクスピアは子供の時にこの「英雄伝」を読んで、そして、人生の最後のころ、全てを振り返るかのようにして、「アントニーとクレオパトラ」を書いたのです。

ローマ人は、この人たちをどう残したかったか、シェイクスピアは、この人たちをどう理解したのか、そして、私たちは……？

それでも、2000年前の文章は、なかなか読みにくいですから、すごくすごくかんたんな文章もいっしょにしました。

それでは、劇場でお待ちしています！



～目次～

ごあいさつ・・・p4

主な登場人物・・・p5

本編 「英雄伝」より抜粋・・・p6

記事 特別対談・・・p31

～うずめ劇場20周年に寄せて～

お祝いメッセージ・・・p46

メンバーよりヒトコト・・・p47

公演案内・・・p49

<主な登場人物>



アントニー (マーク・アントニー)

英雄ジュリアス・シーザーの片腕として、あらゆる戦場を駆けた歴戦の武人。現在は三頭政治が行われているローマの、執政官の一人であり、東方諸国を総べる地位にある。



クレオパトラ

ローマ勢力下にある東方の国、エジプトの女王。英雄ジュリアス・シーザーと関係を持ち、息子もいる。ジュリアスに会うため、贈り物の絨毯にくるまってローマを訪ねた逸話がある。



シーザー (オクタヴィアス・シーザー)

英雄ジュリアス・シーザーの姪の息子。直々に後継者に指名されたとされる。三頭政治の執政官の一人で、ローマを含む西方を担当。この物語の後、アウグストゥスとして初代ローマ皇帝になる。

編集より このガイドブックでは、うずめ劇場公演「アントニーとクレオパトラ」(シェイクスピア)への導入を目的としています。そのため、固有名詞の多くを、シェイクスピアの戯曲にある英語の発音に合わせた表記に変更しています。例) マルクス・アントニウス→マーク・アントニー、オクタヴィアヌス・カエサル→オクタヴィアス・シーザー

ローマの軍人アントニーは、東国で熱烈な歓迎を受けました。
町中がお祭り騒ぎです。

アントニーは持ち前の激しい情熱を忘れ、
のんびりだらだらと暮らすことに慣れてしまいました。

その頃シーザーは、ローマのため、必死に働いていたのに。(24)



24. アントニーはギリシアの管理を部下に任せて、アジアに向かい、富を手に入れた。王たちは彼をよく訪ね、王の後たちもそれぞれに贈り物や容姿を競い合って、アントニーの歓心を買おうと努めた。ローマではシーザーが内乱と戦争のために身をすり減らしていた一方で、アントニーは平安と平和に浸り、情熱を忘れてだらだらと日々を過ごしていた。アントニーがエフェソスに入ると、女たちはバックスの信女に扮し、男と子供はサテュロスやパーンの姿に扮して、アントニーを引き連れて歩いた。広場は蔦の葉、祭の杖、琴、笛の音に満たされて、よろこびをもたらす神ディオニソスとしてアントニーを担ぎ上げた。たしかに彼はそう見えたと言える。しかし、生肉をかじる粗野なディオニソスではあった。

アントニーはクレオパトラに出会い、たちまち恋に落ちました。
眠っていた情熱は恋のために燃え上がり、
大人らしい分別などは蹴散らしてしまったのでした。(25)



25. そんな状態のアントニーにとって、クレオパトラへの恋は破滅的なわざわいとなった。彼の心の奥に隠れ、落ちていた情熱のほとんどを呼び覚まし、猛らせて、それに対抗しようとする誠実さや救いとなる性質があったとしても、それを蹴散らし、滅ぼしてしまった。

クレオパトラは**黄金の船**で彼のもとへ向かいました。
まるで絵画のような美しさです。
アントニーは大喜びでクレオパトラのパーティーに出席し、
そのあまりのまぶしさに目がくらんでしまいました。(26)



アントニーも、お返しに立派なパーティーを開こうとしますが、
とてもかないません。

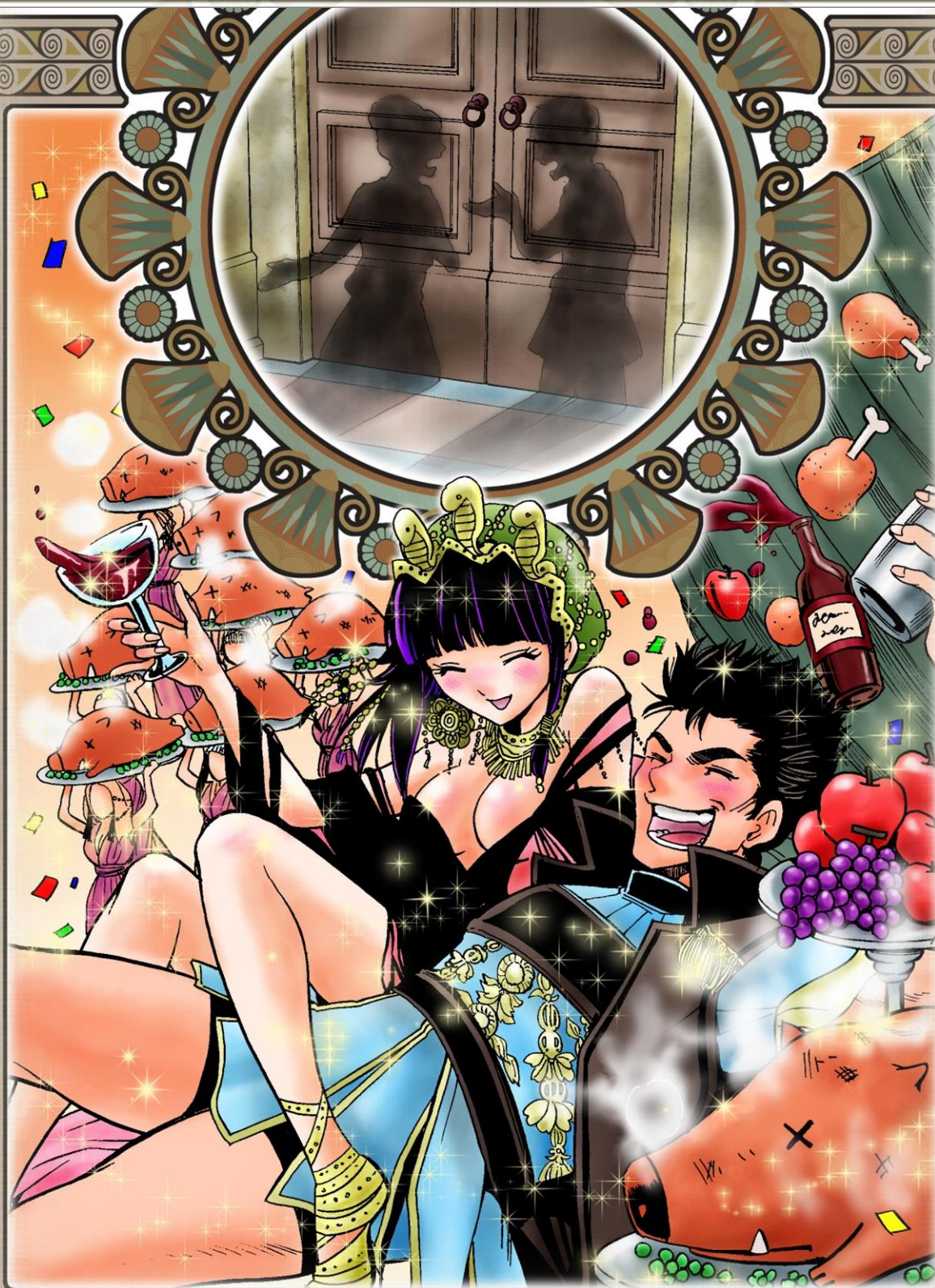
クレオパトラは美しい女性でしたが、それよりも、
立ち振る舞いや会話のセンスからただよう雰囲気で、
言葉が通じなくても、相手を**魅力のとりこ**にしてしまうのです。(27)

26. クレオパトラは、アントニーとその友人たちから多くの招待状を受けとったので、彼を見下してあざけた上で、黄金で飾り立てた艦、緋色の帆、銀の櫂の船で、琴と笛の楽奏に乗ってキュドノス川をさかのぼった。クレオパトラは黄金をちりばめた天蓋の影で、絵画にあるアフロディテのごとくに腰かけ、また絵画にあるエロスのごとき姿の子供たちが両脇にひかえて女王を煽いでいた。また最も美しい侍女たちはネレイデスやカリテスに扮して、舵や、帆綱の側にたたずみ、ふんだんに焚かれた香のかおりが、兩岸へ向けて解き放たれた。川辺の住民たちは、岸伝いに船に追従し、市民は皆見物に集まった。広場の者たちもそちらへ行ってしまったので、アントニーは一人で取り残されてしまった。アジアの繁栄を願って、アフロディテがディオニソスのもとへお祭り騒ぎをしにやってきたのだと、誰もが囁き合った。アントニーはクレオパトラを招待するため遣いを出したが、女王は、彼こそが自分の招待に応じてくれるべきだと望んだ。するとアントニーはすぐに応じてやってきた。言葉にできないほどの歓待の準備がなされていたが、なによりも灯火の数の多さに圧倒されてしまった。

27. 翌日、アントニーはお返しの席を催し、クレオパトラの宴の美しさと優雅さを上回ることを願ったが、勝ち目はない。結局、自分達のもてなしが貧相で悪趣味であることを自嘲するしかなかった。クレオパトラはアントニーの冗談を聞いて、これを所詮は野暮な軍人だと見抜き、容赦なくあからさまにそういう態度でふるまった。女王の美貌は、それ自体を見れば、決して、比類なきもの、見る者の目を捕えて離さないもの、というわけではなかった。やりとりの魅力や、会話の説得力、周囲にふりまかれる性格が、その容姿と相まって、人々の心に針のようにくい込むのだった。声には甘い雰囲気がまだ漂っており、あらゆる音を奏でる弦楽器のような舌が、彼女の思いをすらすらと語り分け、異国の人々を相手にしても、通訳を必要とすることはほとんどなかった。

28. クレオパトラはアントニーの心を捕えて離さなかった。その頃、ローマではアントニーの妻、ファルヴィアが、夫の利権を守るために自らシーザーと対峙していた。また、メソポタミアのパルティア軍は、ラビエヌスを総大将に据えて、シリア侵攻を画策していた。しかしアントニーは、クレオパトラに言われるままにアレクサンドリアへ行ってしまった。そして、まるで暇を持て余す若者のように競技を楽しみ、ゲームにうつつをぬかして、「最大の贅沢、それは時の浪費」を実践した。二人は「真似できない生活をする人の会」を作って、毎日パーティーを催し、信じがたい贅沢の限りを尽くした。アンフィサの医師フィロタスは王家の料理人に案内されて調理場を覗いたとき、多種多様な大量の料理の中で、特に八頭もの猪が炙られているのを見て、その客人の数に驚いた。料理人は一笑し、客人はわずか十二人だと告げた。

アントニーはもうクレオパトラに夢中です。
世界では、いろいろと大変な戦争が起きているのに、
この大將軍は、エジプトから帰ってきません。
毎日、想像を絶するパーティーが繰り広げられて、
二人は愉快地、あきれほど贅沢な時を過ごしていました。(28)



クレオパトラはアントニーを、完全に飼い慣らしています。

あるとき、釣りの席で、アントニーは彼女に見栄を張ろうと、部下にこっそり魚を仕込ませて、大物を釣り上げました。女王は大喜び。翌日、たくさんの人が見守る中で、今度はクレオパトラがこっそり付けさせた干物の魚を釣り上げ、爆笑の的になったアントニーなのでした。(29)



29. クレオパトラのおべっかは、四通り（プラトン「ゴルギアス」参照）どころではなかった。幾通りにも駆使して、アントニーを真剣な場面でも、戯れの時にも、常に新鮮な喜びで刺激し、魅了し続け、昼も夜も決して一人にはさせないようにして、飼育していた。常にアントニーと共にゲームを楽しみ、酒の相手をし、狩りに同行し、武芸を磨くのを見つめ、夜、アントニーが市民の家に近づいて、窓から住人を覗き見るときにも、召使の扮装をしてついて回った。彼自身も同じような扮装をしていた。そうした時、彼はいつも罵声を浴びて、時々はぶたれたり蹴られたりして帰ったのだが、市民は皆、なんとなく気づいていた。気づきながらそれを楽しみ、彼はローマに対しては悲劇の仮面を、我々に対しては喜劇の仮面をつけている、と言って喜んでいた。

このようなアントニーの悪ふざけをいくら並べ立てても無意味だ。だが彼はある釣りの時、全くダメだったのだが、クレオパトラが隣にいる手前なんとかしようと、漁師たちを水の中に潜らせて、用意した魚をその釣り針に付けさせるということをした。二度三度とそれで吊り上げるうちに、エジプト女はそれを見破った。しかし彼女はさも感心したようにふるまい、その腕前を友人たちに言いふらして、翌日はぜひ見に来るようにと招いた。そして皆が集まり、船上のアントニーが釣り糸を垂れると、クレオパトラは自分の家来を使っていち早く針先まで潜りこませ、黒海産の魚の干物を付けさせた。アントニーが、かかった、とばかりに引き上げると、予想通り、爆笑が巻き起こった。クレオパトラは言った。「将軍、釣竿など、我が国のファロスかカノボス王にでもやっておしまいなさい。あなたが吊り上げるべき獲物は、都市であり、王国であり、大陸なのです」

遊び呆けるアントニーに、ついに立ち上がる時が来ます。

ローマでは、妻が、夫のためにシーザーと戦争をしているというのです。

いざ彼女を救わんと、アントニーはイタリアへ向かいました。

しかし、合流する前に妻が死んでしまったので、**全部妻のせい**ということにして、さっさとシーザーと和解したのです。(30)



30. アントニーが、こういったバカバカしい、幼稚な遊びに夢中になっているところへ、二つの急報が届いた。ひとつはローマからで、もともと不仲だった弟のルーカスと妻のファルヴィアが、今は共にシーザーと戦を始め、形勢が悪くイタリアから逃げ出したというもの。もうひとつはなお芳しくない知らせで、パルティア軍の総大将となったラビエヌスが、ユーフラテスと、シリアからリディア、イオニアに渡るアジア帯を征服しつつあるというものだった。ここに至ってアントニーはついに眠りから目覚め、深酒を抜いた男のように立ち上がり、フェニキアへ進軍、パルティア軍を迎え撃とうとしたが、途中、妻からの手紙を受け取って、イタリアに針路を向けた。だがそこで、アントニーに合流しようとしていたファルヴィアがシキュオンで病死し、思いがけず、シーザーと和解するチャンスとなった。シーザーの方も、イタリアに到着したアントニーを公然と非難することはしなかった。アントニーの方では、全てをファルヴィアになすりつけた。周囲の友人たちは、互いの言い分についてあまり深く考えさせないように気を付けながら二人を和解させ、支配地域の分割を取り決めた。イオニア海を境界に、東をアントニー、西をシーザーに割り当て、アフリカをレピダスの担当にし、アントニー、シーザーのどちらもローマの執政官をやる意思がない場合、互いの友人が順番で務めることとした。

ところで、シーザーには**素敵な姉**がいました。
シーザーとアントニーの和解をより確実なものにするために、
この姉、オクテーヴィアとアントニーは、ローマで結婚式を挙げました。
妻は死んだし、クレオパトラとは結婚してないので問題ありません。(31)



31. この協定は妥当なものだったと言える。しかし、運よく、より強固な結びつきを得ることができた。シーザーの姉であるオクテーヴィアは、奇跡の女と称えられ、弟から非常に慕われていた。彼女は夫であるガイウス・マルケルスを少し前に亡くしており、寡婦だった。一方アントニーも、ファルヴィアを失って寡夫ということになっていた。クレオパトラとの関係は知られていたが、これは正式な結婚ではなく、このエジプト女との恋愛については、理性を持って対処しているということになっていた。オクテーヴィアは類まれな美しさと、気品と、知性とを備えた女性であり、男であればこの人を間違いなく心から愛するであろうから、アントニーと結びつけば、国内外のあらゆる問題を片づけ、国を固める礎になるだろうと誰もが考え、期待して、縁談を進めた。そして二人は、ローマで結婚式を挙げた。

ローマは海賊ポンペイと和解することにしました。

会議の後は、海賊流の船上パーティーです。

アントニーもシーザーも、船上でのんきに語っています。

「親分、今ならアイツらを始末して、

あんたを世界の王にしてやれますぜ」

部下の囁きを笑い飛ばし、海の王は島へ帰っていきました。(32)



32. セクスタス・ポンペイはシチリア島を拠点にして、海賊のミーナスとミニクラティーズ率いる海賊船によってイタリアに略奪を繰り返し、近海の航行を妨げていた。しかしアントニーとは親交があり、彼の母と妻がローマを逃げ出したとき、かくまってくれたこともあったため、また協定を結ぶことにした。ポンペイの艦隊と、アントニーとシーザーの陸軍とが対峙する中、3人はミゼノの岬で会合した。ポンペイはシチリア島とサルデーニャ島を領有するかわりに、海賊を掃討し、かつローマに穀物の供給を行うという内容に同意して、後は互いに宴席をもうけ合う流れとなった。クジを引き、ポンペイが最初に二人を招くことになった。アントニーが、会場はどこかと聞くと、ポンペイは巨大な旗艦を指示した。「そこだ。これが我が身に遺された伝来の屋敷だ」。これは、ポンペイの父のものだった屋敷を現在所有しているアントニーへの、皮肉がこもった言葉だった。錨を下ろし、岸から足場を橋渡しにかけて、彼は二人を朗らかに迎え入れた。宴もたけなわ、皆でクレオパトラとアントニーのことをひやかして大いに盛り上がっている時だった。海賊ミーナスがポンペイに近づいて「錨の綱を切っちゃまおうか。あんたを、シチリアとサルデーニャだけじゃなく、ローマ帝国の王にしちまおう」と、こっそり囁いた。ポンペイは少し考えたが「ミーナス、やるなら、オレに言う前にやるべきだった。今はこのままでいよう。約束した後で裏切るのを、オレは自分で許さない」。結局、そのまま続けてローマ側の返礼のパーティーを受け、彼はシチリアに帰って行った。

ところで、アントニーは最近、ツイていません。

なにをしてもシーザーに負けるのです。賭けもゲームも負け続けです。

エジプトから来た預言者は言いました。

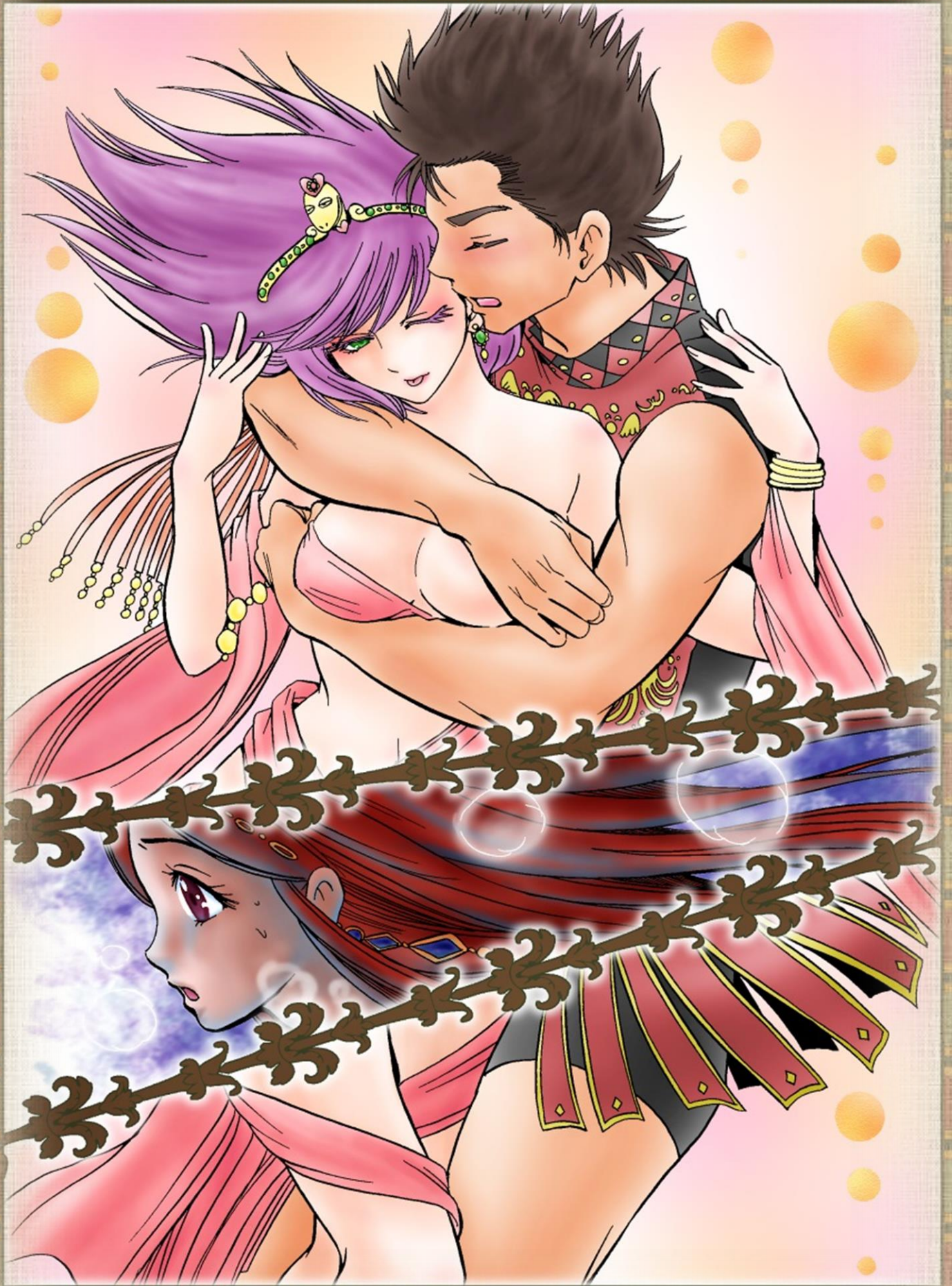
「あなたの守護霊を、シーザーの守護霊が脅かしている。離れた方がいい！」

すっかり信じたアントニーは、**新妻のことは義弟に預けて、**

エジプト（愛人のもと）へ向かいました……。 (33)



33. その後、アントニーはパルティア軍の侵攻を抑えるため、アジアに戦力を送り込んでいった。ところで、アントニーは、賭けやゲームでシーザーに負けてばかりいて、腐っていた。そのとき彼のもとにエジプトの預言者が訪れて、運勢を占い、アントニーの光り輝く大なる幸運は、シーザーのせいで陰ってしまう、できるだけ遠く彼と距離を置いた方がいい、と進言した。これが、クレオパトラの差し金なのか、真実の預言なのかはわからない。「あなたの守護霊は、彼の守護霊に怯えている。一人の時には威風堂々、しかし悪しき守護霊の接近により、卑屈に縮まってしまう」。実際の状況を見るに、このエジプト人の言うことは正しいようだった。遊びでクジを引いても、サイコロの目に賭けても、アントニーはいつも負けた。闘鶏でも、ウズラの鳴き比べでも、必ずシーザーが勝った。アントニーは平気なふりをしていたが、いつも落ち込んでいた。それでますますエジプト人の言葉に耳を奪われるようになり、ある日シーザーに家族のこと一切を任せてイタリアを去った。



突然エジプトへ行ってしまった夫を追って、
新妻オクテーヴィアは旅立ちました。

その知らせを受けたクレオパトラは大慌て。

なにしろ、噂に聞くオクテーヴィアは絶世の美人で、気品に満ち、賢く、
性格もいいうえに、あのシーザーの姉だということです。

アントニーの**主導権を奪われる**かもしれない……。

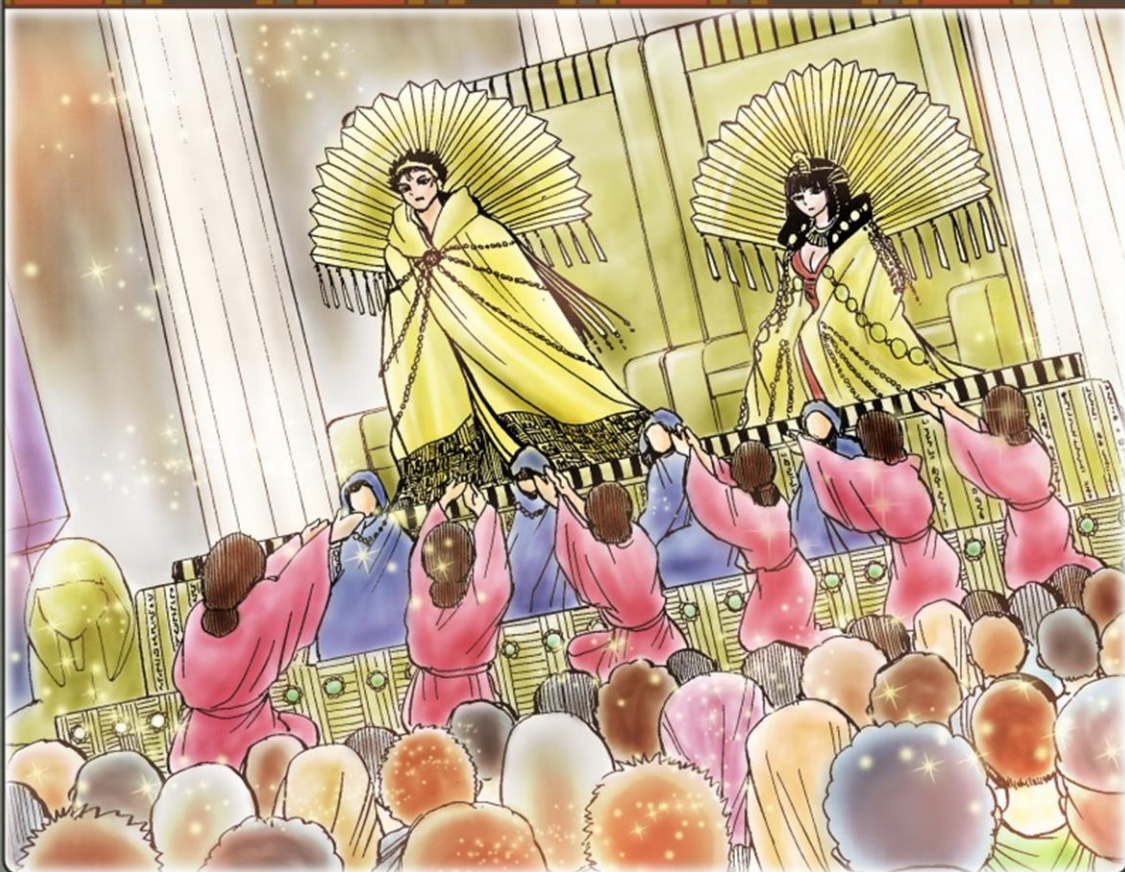
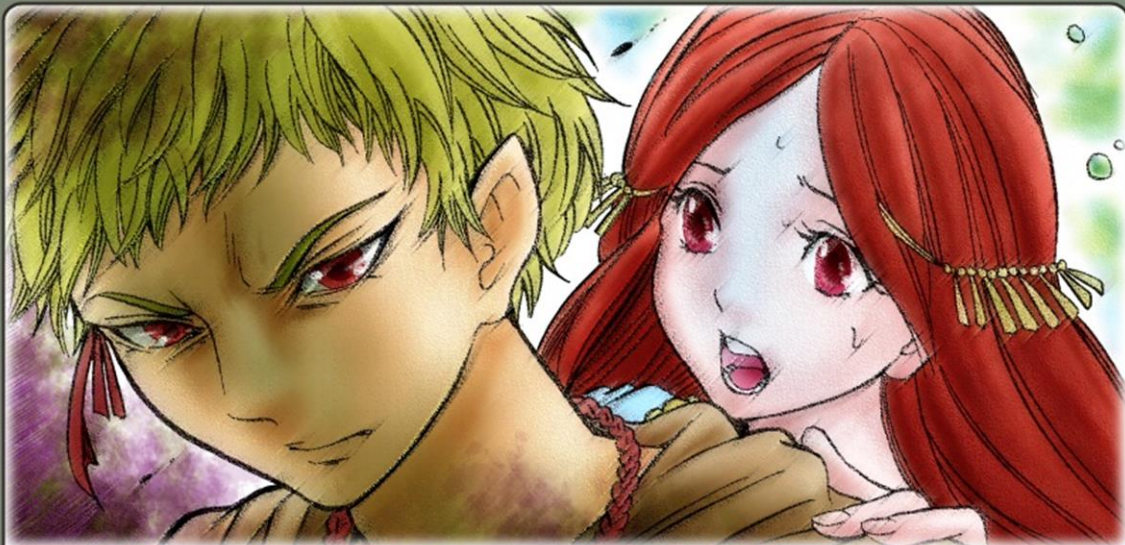
ありとあらゆる女の武器を駆使して、国民もこれに味方して、
クレオパトラは、アントニーの心を完全に捕縛しました。(53)

53. オクテーヴィアは、アントニーを追ってエジプトへ向かうことを、シーザーに認めさせた。この望みをシーザーが許したのは、姉への好意のためではなく、この結果姉が不当な扱いを受け、侮辱を受けたとなれば、体のいい戦争の口実が作れるかもしれないと考えたからだ、という見方が、ローマで大勢を占めていた。オクテーヴィアがアテネに着くと、アントニーからの手紙が届いていた。彼は今、アジアへの侵攻に動いていること、彼女はその場に留まるべきであることが命じられてあった。オクテーヴィアは、これが口実であると思い、胸を痛めた。そこでアントニーに、彼のために運んできた様々な品物をどこに送ればよいかと手紙を返した。オクテーヴィアは、軍服や荷役用の動物、士官らを多数、そしてアントニーが友人に贈るための金品を携えて来ていて、更に選りすぐりの武装した精兵二千を伴っていた。これを知らせたアントニーの友人ニゲルは、さらに彼女への賛辞をそれに加えることも忘れなかった。

クレオパトラは、オクテーヴィアがやってくるとの知らせを受け、彼女が夫のアントニーを完全に支配することになるのを恐れた。なにしろその女は、気品に溢れ、シーザーという後ろ盾を持ち、性格が良く、アントニーに対しては極めて貞淑な完全無欠の妻だという。クレオパトラはアントニーへの恋心を抑えられぬ風を装い、食事を減らして身を細らせ、アントニーが近づくとき恍惚のまなざしを送り、去り際にはうなだれて憂愁に満ちた瞳を投げた。また幾度も泣いている姿を見られるようにし、かつそれをアントニーには気づかれまいとしているかのように慌てて涙をぬぐって隠してみせるという工夫を加えた。この手練手管が発揮されたのは、アントニーがシリアからアジアへ足を踏み入れ、メディア王の土地に侵攻しようとして構えていたときだった。女王に仕える者たちも、しきりにアントニーを非難して主を援護した。彼は冷酷で、薄情で、彼に、彼だけにすべてを捧げ尽くす女を捨てるひどい男だと言いつづけた。オクテーヴィアは弟のための政略結婚で正妻の地位をほしいままにしているのに、我らの偉大な女王は愛人の扱いで、卑下されてこそいないとは言え、彼に捨てられたらその先、生きていく情熱すら残らないだろうなどと言いつづけた。とうとうアントニーは屈服し、弱気になって、クレオパトラの自殺を案じてアレクサンドリアに戻っていった。

54. さて、シーザーはオクテーヴィアが侮辱を受けたものと考え、アテネから帰ってきた彼女に、夫の家を離れるように命じた。しかし彼女は受け入れず、それどころか、他に戦争の理由ができない限り、自分のことには触れずにいてほしいと願い出た。最高権力者である二人が、女への愛と、また女への怒りとでローマ帝国を内乱に落とし込むのは外聞が悪いという主張である。彼女はこの主張を、行動によっても示した。オクテーヴィアは、まるで夫が家にいるかのようにふるまって、その家で過ごした。また自分の腹を痛めた子だけでなく、ファルヴィアの遺した子供たちまでも、優しく立派に面倒を見た。さらに、アントニーの友人たちが、士官や人脈を求めて訪れたり、遣いを出したりしたのを快く迎え入れ、シーザーへの口利きを引き受けた。しかしこうした献身は彼女の意に反し、アントニーを追い詰める結果になってしまった。これほどの良妻賢母の鑑を冷遇していると憎まれたのである。また、アレクサンドリアにおける、アントニーの子供たちへの振る舞いが誇大に過ぎ、ローマへの敵対行動ととられたことも憎しみを増やした。たとえば、民衆でいっぱい広場に銀の祭壇と金の椅子ふたつを設え、自分とクレオパトラが並んで座り、子供たちのための一段低い椅子を並べた。クレオパトラをエジプトおよびアジア諸国の女王と宣言し、カエサリオンを共同統治の王とした。カエサリオンは、かつてジュリアス・シーザーがクレオパトラのもとを去った時に残した子だとされる。そしてアントニーは自分とクレオパトラとの間にできた子供たちに、「王の王」という称号を授けたのだった。

ローマに帰ったオクテーヴィアは、
シーザーに開戦を踏みとどまるよう懇願しました。
彼女のいじらしさに、シーザーもローマ人たちも**同情**しています。
一方、エジプトでは、アントニーが自分とクレオパトラとの子供を
王に祭り上げる大げさな式典を開催しました。
彼の傲慢に、シーザーもローマ人たちも**激怒**しています。(54)



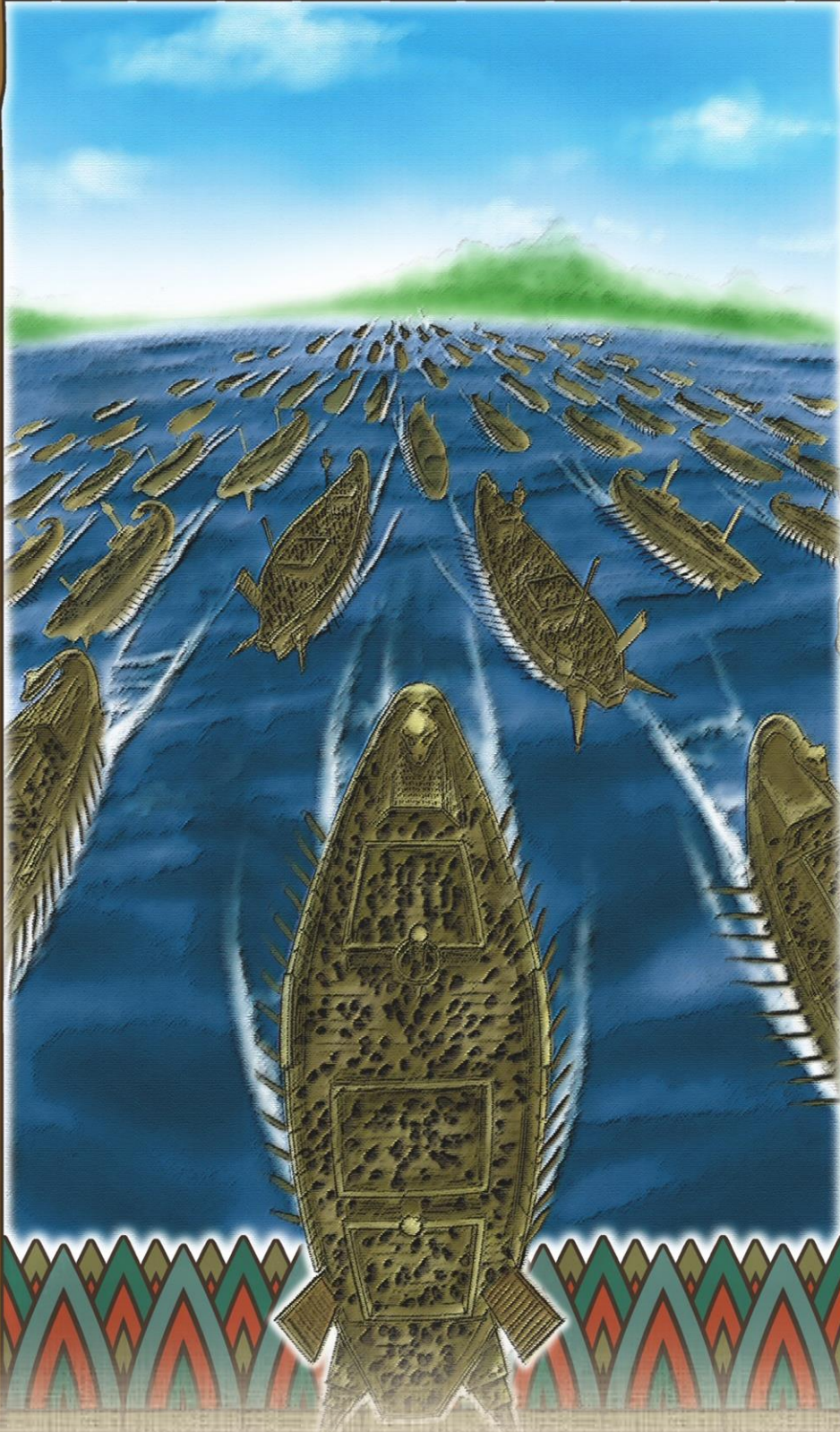
いよいよシーザーがエジプトに**宣戦布告**しました。

シーザーは、アントニーは毒で正気を奪われていると主張します。(60)



60. シーザーはクレオパトラに宣戦布告する準備を整えた。そして、アントニーがこの女に託した土地の支配権を、彼から剥奪することが可決された。ただしシーザーは、アントニーは薬で正気を失っており、戦うべき敵は、政治の実権を握る中枢だと宣言した。それは宦官のマーディアンであり、クレオパトラの侍女であるアイラス、シャーミアンであると。

アントニー軍は戦艦だけでも五百隻以上！ (61)



61. アントニーの軍勢は、戦艦五百隻以上、中にはあのポンペイの旗艦を凌ぐ大型のものが数多くあり、豪華で儀礼的な装飾を施したのもあった。さらに歩兵十萬、騎兵一万二千以上という陣容だった。シーザーの側は、戦艦二百五十隻、歩兵八萬、騎兵は敵とほぼ同数であった。

ついに開戦の時を迎えました。

軍人としてはシーザーより格上のアントニーですが、
クレオパトラに振り回されていいとこなし。

せっかくの巨大な戦艦五百隻も、

動かす人が足りなければ役に立ちません。

反対に、シーザーは速い船と巧みな戦術で駒を進めます。(62)

62. アントニーは本来陸戦で負け知らずの男であり、そこにこそ勝機を見出すべき將軍であったにも関わらず、すっかり女の言いなりになっていて、クレオパトラの意に従って海軍を押し出しての戦となった。しかし、乗組員が不足していた。ギリシアから旅をしてきた人（すでに疲れ切っている）、荷役の馬方、農夫、成人になりたての若者をかき集めてもまだ足りず、ほとんどの軍艦が人員不足で不十分な機動力しか維持できないことを彼は知っていたのにも関わらず。シーザーの方は、高さや重さを誇示するための船ではなく、扱いやすく、速く、規定通りの乗組員を満した艦隊をターラントから布林ディジに集結させていた。シーザーはアントニーに遣いを送り、時間の無駄だ、とっとと全軍でかかってこい、と伝えた。さらに、アントニーの艦隊が妨害を受けずに港に入るのを見守って、アントニーが安全に上陸し、陣を整えるまで、海岸から騎馬で一日離れたところで待っていてやろうかとまで付け加えた。この大口にアントニーも受けて立って、こっちは君よりだいたい老体だが、一騎打ちに挑戦させてくれんか、それが無理だというなら、かつてファルサロスでジュリアス・シーザーがポンペイ（父）を打ち取った時のような、堂々たる決戦ぶりをお見せしよう、と返した。

カエサルは素早くイオニア海を渡ってトリュネーというイピロスの一角を占拠した。アントニーはニコポリスのアクティオン付近で停泊していたので、一気に鼻先まで詰め寄ってきた相手に、出遅れた形になる。アントニーと友人たちがそわそわしていると、クレオパトラは嘲って言った。

「シーザーがひしゃく（トリュネー）に乗ってるからって、何が怖いんですか」

66. いよいよ決戦の火ぶたが落とされたが、船同士が先端の角（衝角）をぶつけ合うような、激しい破壊を伴う海戦にはならなかった。アントニーの船が鈍重で、角に十分な破壊力を乗せるだけのスピードを出せなかったのだ。またシーザーの船は、巨大な金属の塊のような敵船に、敢えて突進しようとはしなかった。そのため、その海戦はどちらかというと、陸上の攻城戦のような趣となった。戦闘は白熱し、勝負の行方は誰にも見えなかった。しかし突然、クレオパトラの乗る艦が帆を上げて走り出し、いまだ入り乱れた戦場を突っ切って逃走してしまった。またその艦は後方の、大型艦の背後にいたため、その隙間を突っ切る行為によって著しく混乱を招いた。その船が風をまとい、ペロポネソスの方へ向けて去るのを見て、敵軍も混乱した。アントニーはこの瞬間、指揮官でも男でもなかった、一切の判断力は消し飛んだ。誰かが言った「恋人の魂はその相手の体に宿っている」という言葉の通りに、一心同体、引きずられるまま同じ動きをする仕組みになっている有様を立証した。つまり、クレオパトラの船が逃走したのを見た瞬間、彼は、彼のために戦い死にゆく人々をその場に捨てて逃走した。

海上で、ローマとエジプトの船が激戦を繰り広げます。
突然、クレオパトラの船が猛スピードで戦場から離れていきました。
誰も理由がわかりません。
そしてアントニーは……**全てを忘れて**彼女を追いかけていきました。
背後に、彼のため命を懸けて戦う兵士たちを置き去りにして……。 (66)



クレオパトラに追いついたアントニー。
しかし、言葉はなく、ひとり意気消沈……。 (67)



67. クレオパトラはアントニーに気づき、船から合図を送った。アントニーはクレオパトラの船に迎えられたが、クレオパトラとは一瞥も交わさずに、ひとり船首に腰を下ろして、無言で頭を抱えていた。

残されたアントニーの軍も、ついには降伏。
それにしても、あの歴戦の武人アントニーが
戦場から子供の様に逃げたなんて、誰にも信じられません。(68)



68. こうした事件がアントニー軍側で起こっていた戦場で、彼らの艦隊はシーザーに最後まで抗い、長時間にわたって戦い続けたが、正面からの高波に煽られて損害を深め、ついに降参した。シーザー自身の記録によれば、死者は五千、拿捕された戦艦は三百隻。アントニーの逃走に気付いた者はほとんどなく、それを聞いた者も信じる事ができなかった。常勝の陸軍を率い、手元に騎兵一万二千を残して、あらゆる不運や思い通りにならない戦の苦難を乗り越え磨き抜いてきた経験がまるで何もなかったかのように、逃げ去ったという話は。

敗戦の後、二人は何もかも忘れたかのように、
よりいっそう豪華で贅沢なお祭り騒ぎの日々を過ごしました。
一方で、クレオパトラは死ぬための毒をあれこれと探し求め、
一番苦しまないですむ毒蛇を見定めました。(71)



二人はシーザーへ手紙を出しました。

「子供たちのため、エジプトの統治は続けさせてほしい」（クレオパトラ）

「権力を離れ隠棲したい。

できればエジプトで。だめならアテネでも可」（アントニー）（72）

71. アントニーのところへ、副官キャニディアス自らが報告に訪れ、敗戦の状況を告げた。多くの軍団を率いて参戦していたユダヤのヘロデスはシーザーに寝返り、他の王たちも次々と離反して、エジプト以外の場所には一人の兵士も味方に残っていないとのことだった。しかしアントニーは知らせを受け取っても一切の平静を失わず、全ての希望を潔く投げ捨てて悩みをも全て吹き飛ばそうとしたのだろうか、海辺の住居を去ってクレオパトラの王宮に入り、市民を食事とパーティーに招き、プレゼントを配り、クレオパトラとジュリアス・シーザーの子を成人リストに加えて、ファルヴィアとの間の子には赤の縁なしのトガを贈り、何日もの間、祝いの饗宴と祝祭の乱舞がアレクサンドリアを包み込んだ。アントニーとクレオパトラは、例の「真似できない生活をする人の会」を解散し、さらに趣向を凝らして、豪華な新しいクラブ「一緒に死ぬ人々の会」を作った。友人たちは皆そのクラブに登録され、死ぬときは一緒だということで、順番にパーティーを催し、おもしろ楽しく過ごした。クレオパトラは、命を奪う力を持つ毒薬を調べて、死刑囚で実験し、苦痛を伴わないものを探し求めた。即死をもたらすものは苦痛も激しく、緩やかな死をもたらすものは時間がかかる。毒のある動物が噛み合う様子を観察し、実験を重ねた。日々の研究の末に、アスピスという蛇の毒は、痙攣もなく、苦しみがくこともなく、少しの発汗を伴って、五感がマヒしていき、深い眠りに落ちるように、帰らぬ人となることを見つけ出した。

72. またクレオパトラとアントニーは、これに並行して、アジアに来ているシーザーへ遣いを出し、懇願した。クレオパトラは自分の子供たちにエジプトの統治権を望み、アントニーは、エジプトがだめならアテネで隠棲したいと願った。ただ、使者として頼れる友人は皆逃げてしまったし、信頼できる人がほかにいなかったため、王子の家庭教師をしていたユーフローニウスが送り出された。

73. シーザーは、アントニーの願いを無視して、クレオパトラに返事を出し、アントニーを殺すか、追放すれば、それに見合う対応をしないこともない、と伝えた。この使者の伴にひとり、彼自身の側近である解放奴隷のサイアリアスをつけた。この男は教養がある上、美しさを好むことにかけては類を見ない女にこちらの言い分を通すための十分な交渉を行いうると思われた。彼は、他の使者たちよりも長時間にわたり、クレオパトラから特別の厚遇を受けたので、アントニーはそれを疑って、サイアリアスを鞭で痛めつけた。そしてシーザーへの返信として、不幸のため短気になっているところへこの男は尊大な態度で現れ、人を蔑むようなふるまいをしたので腹が立ったのだと記し、「もし君が納得できないというなら、私の解放奴隷ヒパーカスを差し出すので、これを吊るして鞭で打てば、チャラということだ」と加えた。クレオパトラはアントニーに尽くして、なんとか、自分への非難と疑いを晴らそうと努め、自身の誕生日を祝うのは、今の立場にふさわしい質素さで済ませ、アントニーの誕生日を祝うのは、万事豪華に、贅沢に行い、招待されたものは皆、貧乏人として来たのに、金持ちになって帰るといふ具合だった。

シーザーから返事の使者がきました。

クレオパトラは、この若い男をもてなしてチャホヤしています。

怒ったアントニーは、**使者をムチで打ってボロボロにしました。**

女王はアントニーの怒りを鎮めて信頼を取り戻そうと、

彼の誕生日を盛大に祝ったのでした。(73)



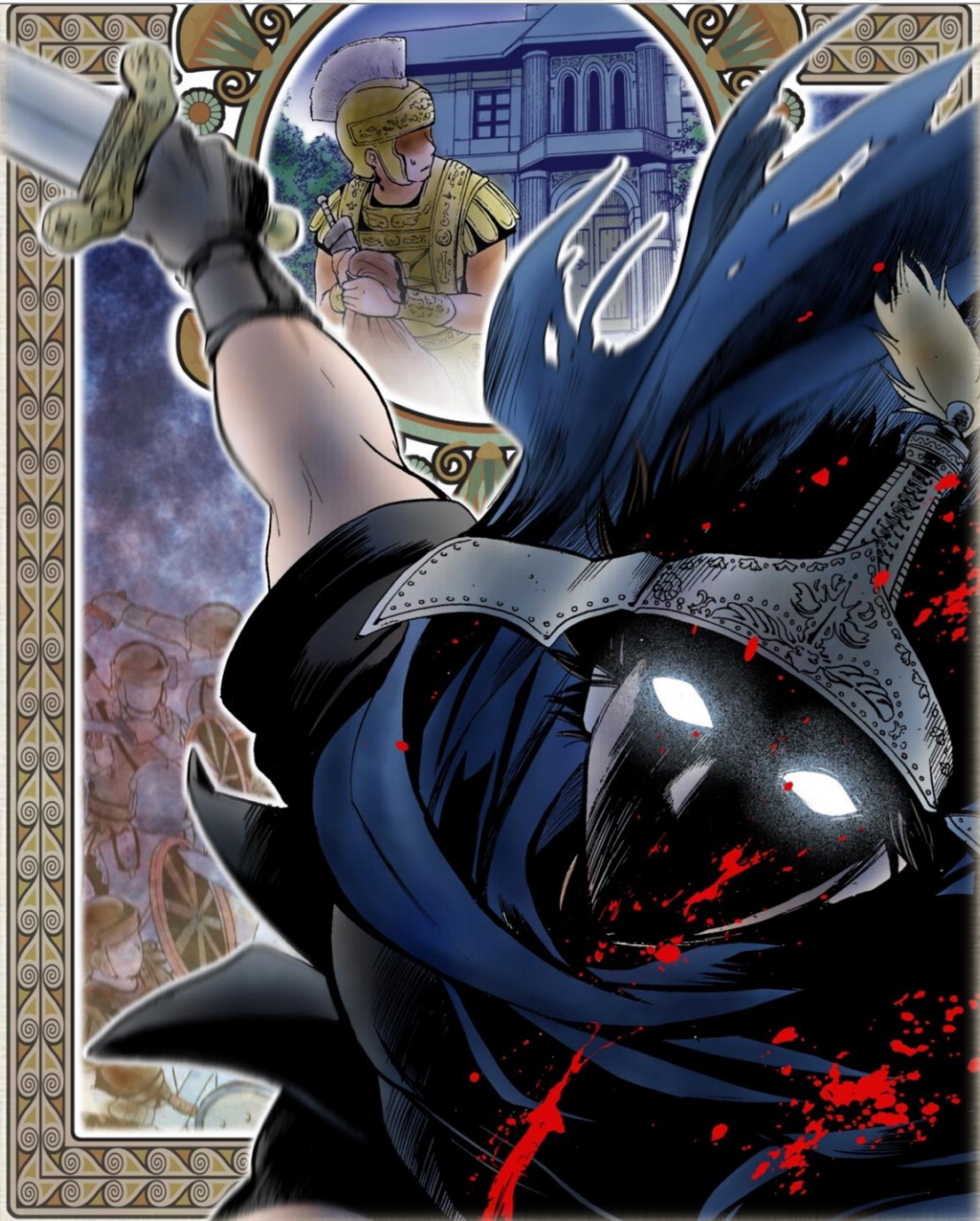
シーザーが、ついにアレクサンドリアへ迫る！

陸で戦えば常勝無敗の大將軍、アントニーは面目躍如の大活躍。

意気揚々とクレオパトラに勝利を告げ、その日のMVP兵士を称えます。

勇者に贈られた女王からのほうびは、黄金の鎧と兜。

その夜、**黄金の勇者**はシーザー陣営に寝返りました。(74)



74. クレオパトラはイシス神殿の近くに、美しく偉大な墓と記念碑を建造中だったが、そこに金、銀、エメラルド、真珠、黒檀、象牙、シナモンなど、王家の貴重な財宝を積み上げて、それらをかがり火用の薪や麻屑ですっかり覆ったため、シーザーは財宝が失われることを心配し、クレオパトラが絶望のあまりそれに火をつけるのを思いとどまらせるべく、絶えず何かしらの希望をちらつかせ、好意を示そうとし、と同時にアレクサンドリアへ向け進軍した。そしてシーザーは競馬場の近くに布陣したが、アントニーが出陣して獅子奮迅の戦いぶりを見せ、シーザーの騎兵隊を蹴散らし、さらに敵陣まで追撃を行った。そして勝利のため高揚し、王宮へ戻って武装したままクレオパトラに口づけして、最も勇敢に戦った一人の兵士を指し示した。クレオパトラはその兵士の戦功を称えて黄金の鎧と兜を授けた。その男はそれらを拝受したのち、シーザー陣営へ夜逃げした。

死を覚悟したアントニーは、ついに総攻撃を決意します。その夜、アレクサンドリアで、謎の乱痴気騒ぎが、楽器と、踊りと、叫びとを伴って、町から去ってゆきました。人々は、アントニーの守り神、酒と快樂とお祭り騒ぎの神ディオニソスが、ついに彼のもとを去ったのだとウワサし合いました。(75)



75. アントニーはシーザーに一騎打ちを申し込む遣いを出した。しかしシーザーは、死ぬための道は何通りでもある、とアントニーに答え、アントニーは、戦場で死ぬ以外の道はないのだとの考えに至り、陸と海の総攻撃を決意した。食事のとき、奴隷に、普段になくみなみと酒を注ぎ、丁重にもてなしてほしいと命じたとされるが、これは奴隷たちの明日を案じてか、あるいは彼らが他の主人に仕える一方で、自らは死者として倒れ、ミイラになり、朽ち果てるだろうことを思ったのか、いずれかだろう。友人たちはそれを耳にして涙を流したが、アントニーは、戦場では安全や勝利よりも、名誉ある死を求めるため、一人で行く、と言った。その夜、ほとんど真夜中ごろ、アレクサンドリアは近い未来へのおそれと不安とで沈んでいたが、突然あらゆる楽器の音と、お祭り騒ぎのやかましい行列の行軍と、バッコス風の乱痴気騒ぎと、サテュロスの乱舞を舞う民衆の叫びとが響き渡り、その一群はひとかたまりに都市の中心を抜け、敵方の外門をさして行き、そこでひととき大きな音をたててから、都市の外へ出て行ったという。これを兆しとみた人々は、アントニウスの守護神、彼がいつもその神を真似ようとし、片時も離さなかったあの神が、彼のもとを去ったのだと考えた。



味方の戦艦が、戦いもせず、すべて敵軍に合流していく……

絶望し、興奮のあまりクレオパトラの名を叫ぶアントニー。

その怒りを恐れて、彼女は墓の中に逃げ込んで閉じこもり、

「女王はもう死んだ」という知らせを走らせます。

アントニーはそれを真に受けて、

後を追おうと切腹しますが、うまく死ねません。

介錯役のエーロスは、先に自殺してしまいました。

そんなところへ女王の使者が訪れて、彼女がまだ生きていること、

その場所へ彼を案内することを告げたのでした。(76)

76. 夜が明けると、アントニーはアレクサンドリアの丘に歩兵を自ら布陣し、艦隊が出向して敵艦隊に攻め入るのを見下ろしながら、戦果を期待して落ちついてた。だが艦隊は敵に近づくと、舵を挙げてシーザー側の乗組員にあいさつし、相手方もあいさつを返すと、艦隊は敵方とすべて一体となり、舳先を転じてこちらへ迫ってきた。その様を見とめるや、今度は騎兵隊が彼のもとを離れ、アントニーは歩兵隊のみで惨敗を喫し、市内まで撤退した挙句「クレオパトラが裏切って、彼女のために立ち向かった敵の手に売り渡されたのだ」と叫んだ。クレオパトラはアントニーの怒りと猛りとを恐れて墓の中へ逃げ込み、鎧戸に厳重にかんぬきをかけ、留め金で固めて、女王はすでに死んだという知らせをアントニーへ向けて走らせた。アントニーはそれを真に受けて、自分自身に「アントニー、何をしているんだ。運命が、命を惜しむためにたった一つ残されていた口実さえ奪っていったぞ」と言い、自分の部屋に入り、鎧の留め具を外して脱ぎ、「おお、クレオパトラ、あなたを亡くしたことを、悲しみはすまい。すぐに同じ所へ行くのだ。だが誇り高き大將軍たるこの俺が、勇気で女におくれを取ったとされるのは無念だ」と言った。ところで、アントニーの忠実な奴隷にエーロスという名の者があった。アントニーはかねてより、いざという時に自分の命を奪ってくれるよう彼に命じており、今こそその使命を果たせと告げた。そこで彼は剣を抜き、アントニーへ向けてそれを振りかぶったが、顔をそむけ、自殺した。足元に横たわるその姿を見て「よくやったエーロス、よくぞ俺に教えてくれた。俺が、自分ではできずにいて、しかしそうするべきことが何かを」と言い、自ら腹を刺して寝台に倒れた。しかしその傷は直ちに命を奪うものではなかった。そのため倒れてしばらく後、出血がおさまると目を覚まし、周囲の人々にとどめを刺してくれるよう呼びかけた。人々は叫んで逃げまどい、もがき苦しむ彼をその場に捨てて行ってしまった。するとクレオパトラの使者、秘書官ダイオミディーズがやってきて、墓の中にいるクレオパトラのところまで彼をつれていくという使命を伝えた。

77. クレオパトラがまだ生きていると知ったアントニーは、家来たちに体を抱え上げさせ、支えられながら、墓の入り口まで運ばれてきた。クレオパトラは扉を開かず、代わりに、窓から綱と紐とを下ろした。アントニーはそれで縛られて、女王と、たった二人帯同していた侍女らによって、引き上げられようとしていた。その場にいた人々の言うには、それは実にみじめ極まる光景だった。死にかけのアントニーは血まみれのまま、なお両手をクレオパトラへ向けて掲げながら、空中にぶら下げられていたのだ。女の細腕にこの作業は困難を極め、クレオパトラは両腕に力をこめて顔をひきつらせながら綱を引き、下で見守る人々は口々に掛け声をかけて応援した。そうして引き上げられたアントニーを横にならせると、クレオパトラは自分の服を脱ぎ去って彼にかけ、自らの胸を叩き、かきむしり、アントニーの顔についた血を拭い、わが主、わが夫、わが大將軍、と呼びかけ、彼の不幸を憐れむあまり、自分の不幸は忘れていた。アントニーは彼女の嘆きを止め、葡萄酒を望んだ。喉も乾いていたろうが、苦痛から早く逃れたいという思いもあったかもしれない。飲み終えるとアントニーは、「もしそれを恥としてかえって苦痛に思うことがなければだが、シーザーの友人の中でも、特にプロキュリーアスを頼れば、より御身の安全は守られるだろう」と勧めた。そして、この最期を嘆かぬこと、彼がよき日々を過ごし、誰もが知る偉大な立場に名を連ね、いちローマ人として、いちローマ人と戦って名誉と共に敗北したことを、慶んでほしいと伝えた。

クレオパトラが隠れている墓まで運ばれてきた瀕死のアントニーは、
ロープでぐるぐる巻きにされ、
女王と侍女の手によって、引き上げられようとしています。
しかしなかなか力のいる作業です。血まみれのアントニーと、
必死でひっぱる女王を、居合わせた人々が下から応援しています。
そして二人は、静かに、最後のときをすごしました。
アントニーは最後までクレオパトラを案じ、
軍人らしく旅立ったのでした。(77)



アントニーの死の知らせを受けたシーザーは、
かつての友を悼み、涙を流しました。
あとは、プロキュリーアスがクレオパトラを連れて来さえすれば、
すべてがシーザーの思いのままというわけです。(78)



78. アントニーが死んで間もなく、プロキュリーアスがシーザーの遣いとしてやってきた。アントニーが自らの腹を刺してクレオパトラのもとへ運ばれていた時に、彼の側近だったディシータスという男が、血の付いた短剣を携えてシーザーを訪れ、その死を告げたためであった。シーザーはその知らせを受けるや天幕の奥に隠れ、かつて志を共にした共同統治者であり、轡を並べた戦友であり、多くのことを共に成し遂げてきた盟友でもあった義兄のために涙を流した。続けて友人たちの前で自らの書簡を読み上げて、この手紙は自分の善意と正しい考えによって書かれたものだったと証明し、アントニーの無礼と傲慢が全てを台無しにしたと訴えた。その後プロキュリーアスを遣わせて、何はともあれ、何としてもクレオパトラを生きて捕えてくるよう命じた。彼はとにかく財宝のことを気にかけていたし、また、勝利の式典の際に彼女をさらし者にする事で、自らの榮譽を増すことができるとも考えていた。一方のクレオパトラは、プロキュリーアスに連れられていくつもりはなかった。プロキュリーアスは墓の前で、固く閉ざされた扉の前に立ち、声だけでクレオパトラの説得を試みた。クレオパトラは子供たちのために王国の存続を求め、プロキュリーアスは、彼女が前向きになり、シーザーを全面的に信頼することを勧めた。

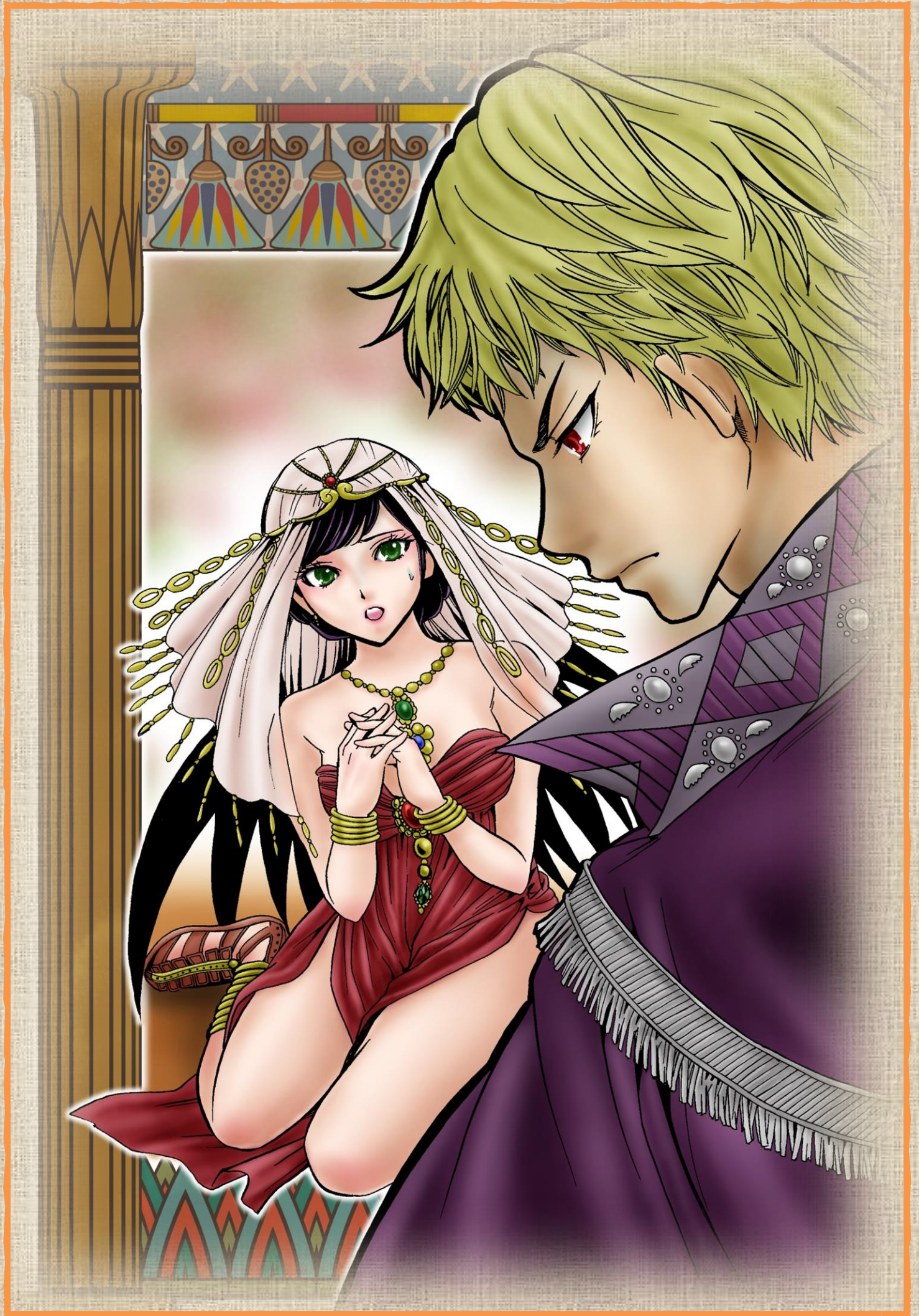
79. プロキュリーアスは墓の周辺を調査し、シーザーに報告した。今度はギャラスが使者としてクレオパトラを訪れ、また扉の前で会談し、わざとこれを長引かせた。その隙にプロキュリーアスははしごを使って、先に女たちがアントニーをひっぱり上げた窓からの侵入に成功した。彼は従者を二人伴って、階下でギャラスの長話を聞いているクレオパトラのもとへ直行した。女王についていた侍女の一人がそれに気付く、「お気の毒なクレオパトラ様、あなたは囚われの身となります」と叫んだため、クレオパトラは振り返ってプロキュリーアスの姿をみとめ、すぐさまわが身を刺そうとした。盗賊風の短剣を、偶然身に付けていたのである。しかしプロキュリーアスがとっさに組み伏せ、「おお、クレオパトラ様、その行いは、あなたのためにも、シーザーのためにも間違っています。シーザーの大いなる好意を無にし、最も寛大な將軍に、薄情で無慈悲だという汚名を着せる行いでございます」と言った。そしてすかさず短剣を奪い、衣服をはたいて隠された毒薬の有無を確かめた。シーザーの解放奴隷であるエパフロディトスが追加の使者として到着し、彼は、クレオパトラを生かしておくよう厳しく監視すること、ただしそれ以外ではやすらかに、快適に過ごさせるようにと命を受けていた。

82. 多くの王や將軍たちが、アントニーの葬儀を申し出たが、シーザーはクレオパトラから彼の遺体を奪わず、彼女の望みをすべてゆるし、彼女自身の手で埋葬させ、それは王にふさわしい、豪華なものとなった。だがクレオパトラは悲しみと苦痛により発熱し----その胸は叩き続けたせいでひどく傷んでいた----それを食事を摂らない口実にして、そのまま誰にも邪魔されず、死んでしまおうと試みた。女王に仕えた医師、オリュンポスによれば、彼はクレオパトラからその真意を打ち明けられ、自殺に協力するよう求められたと証言している。しかしシーザーはそれを察知し、彼女の子供たちをダシに使って脅迫したため、女王はなすすべもなく攻略され屈服し、望まれるがまま、言われるがまま静養に努めることになった。

プロキュリーアスは一計を案じ、**女王の捕縛**に成功します。
とっさに自殺を図った女王から短剣をもぎ取り、
あとからきた使者に身柄を任せました。(79)

アントニーの葬儀は、クレオパトラ自身の手によって、
壮大に、丁重に執り行われました。
シーザーは彼女の望みをすべて聞き入れましたが、
死ぬことだけは許しませんでした。(82)





クレオパトラを訪ねたシーザーは、必死の命乞いを見て、満足します。
本心では狙っている財宝についても寛大なそぶりを見せ、
いずれはすべて手に入れるつもりで、悠々と去っていきました。
それが全て、クレオパトラの芝居だったとは気づかずに。(83)

83. 数日後、シーザーが自らクレオパトラを訪れ、彼女を慰めた。彼女はやつれて寝台に横たわっていたが、シーザーの姿を見るや下着姿でその足元に飛びつき、取り乱して震えながら、泣きはらした目を向けた。体も、心と同様に弱っていることは外見上も明らかだった。しかしそれでも、あの魅力と美貌が完全に失われたわけではなく、これほどまでに弱った今でも、内なる輝きとしてその端々に見て取ることができた。シーザーは横になるよう勧め、自身も腰を下ろした。クレオパトラはあれこれと弁明を始め、すべてはアントニーに強要され、彼を恐れるあまりにやむなくしたことだと語ったが、シーザーはそのひとつひとつに対し、根拠を並べて論破してしまった。彼女はすぐに態度を翻し、慈悲を請い、ひたすら命を惜しんでいる者の姿を見せた。最後には、自分の全財宝の目録をシーザーに差し出した。ところがそこで彼女の執事であるシリューカスが、財宝の一部を彼女が隠していると証言したため、クレオパトラは跳ね起きてこの男の髪をつかみ、数度にわたって顔面をなぐりつけた。シーザーが笑って制止すると、彼女はまた「おお、シーザー、こんなに恐ろしいことはありません。あなたがせっかくここまで足を運んでくださり、こんな私をねぎらってくださっているその面前で、私が女の小物を少し選り分けていたということで、奴隷どもが私を糾弾するのです。卑しい私の身には意味のないこれらの品々を、あなたのオクテーヴィアや、奥方のリヴィアにわずかながら差し上げたい、そうして少しでもあなたからの温情を深めてもらえるよう、あの方たちからとりなしてもらえたならと願っただけなのです」と言った。シーザーは、クレオパトラがこれほどまでに命を惜しんでいる様子を見て喜んだ。そこで、その品々は彼女の思うとおりにすればよし、そのほかのことも、期待以上の厚遇で応えることを約束して立ち去った。そうしてまんまとクレオパトラを騙したつもりでいたが、騙されていたのは彼の方だったのである。

84. ここに、シーザーの友人のひとり、コーネリアス・ドラベラという名家の若者があった。彼はクレオパトラに好意を抱いており、そのため彼女の秘密の願いを聞き入れて、シーザーが陸軍を率いてシリアへ向かう準備をしていること、その出立の三日後、クレオパトラの身柄は子供たちと一緒にローマへ送られる予定であることをこっそりと教えた。これを知ったクレオパトラはシーザーに願い出て、アントニーの墓に酒を注ぐ儀式を執り行う許しを求め、聞き届けられると墓へその身を運ばせて、腹心の侍女らを伴い、骨壺を抱きしめて言った。「おお、愛しいアントニー、ついこの間、私があなたを葬った時、私はまだ自由な身体でしたが、今、あなたに酒を捧げる私は囚われの身、監視され、奴隷の身の上で、自らの体を傷つけることも、涙で心を苦しませることさえもできず、あなたに勝った祝いの席に供されるべく、保管されています。もう二度と、この墓を参ることも、捧げものをすることもありません。これが、クレオパトラがあなたに差し上げる、最後のものです。私たちは生きていたとき、互いに固く結ばれていました。今となってはあべこべに、ローマ人であるあなたがこの地に埋められ、この不幸な女はイタリアへ送られて、あなたの領地のごく一部を受け継ぐことになるようです。しかし、ローマの神々に力があるのなら――エジプトの神々は私たちを見離しましたから――あなたの伴侶を生かしてはおかぬはず、あなたを破った祝勝の祭典のさらし者になどせぬはず、今この地で、私をさらい、あなたと共に埋めてくれるはず。我が身を訪れた幾千ものあらゆる不幸は、しかし、あなたを失って後に過ごしたこのわずかな時間の苦しみの前では、ものの数ではありませんでした」

ローマへの護送が決まっていることを知ったクレオパトラは、最後にアントニーの墓を参り、**別れの言葉**を告げます。
「愛しい人、あなたを失って後に過ごしたこのわずかな時間ほど、私を苦しめた不幸はありませんでした……」 (84)



クレオパトラはシーザーに、用意しておいた一通の手紙を送りました。
「私の遺体は、アントニーと共に葬ってください」
シーザーは大慌てで使者を走らせますが、時すでに遅し。
クレオパトラは、三千年の王国の末裔として、旅立ったのでした。(85)



クレオパトラの死の真相は藪の中。

ローマでは、彼女の像を使った戦勝の祝祭が執り行われました。

シーザーは、気高い女王の誇り高い死に敬意を表し、

壮大な葬儀と、アントニーの墓と共に葬ることを命じました。(86)

85. こうした嘆きを告げた後、クレオパトラは墓に花冠をかけ、骨壺に口づけをし、入浴の準備をさせた。入浴を終えると身を横たえて食事の席に着き、豪華な食事をとった。そこへ、郊外から来た男が籠を抱えて王宮を訪れたので、兵士が籠の中身を問いただすと、男は籠を開けて葉っぱをかきわけ、無花果の実がぎっしり詰まっているのを見せた。兵士たちはその実が大きく、瑞々しいことに感心したが、男が笑顔で数個試すように勧めるのは断って、信用し、奥へ通した。クレオパトラは食後、予め用意し封も済ませてあった書簡を取り出し、シーザーのもとへ遣わせて、二人の侍女だけを残して部屋の扉を閉めさせた。シーザーは書簡の封を解き、そこに、我が身をアントニーと共に葬ってほしいとする哀願を見咎めて、何が起きているのかをすぐに悟った。自ら助けに駆けつけることもまず考えたが、急使を送ることにした。だが惨劇は速やかに済まされていた。急使が駆けつけ、見張りの兵士が訳も分からずにそれを通すと、扉の向こうには、クレオパトラが女王の装束で、黄金の寝台に身を預け死んでいる姿があった。二人の侍女のうち、アイラスは女王の足元ですでに死体となっており、シャーミアンも、もうふらふらしながら重たげに頭を垂れつつ、女王の王冠を整えようとしていた。誰かが「とんでもないことをしたな、シャーミアン」と怒鳴ると、「はい、本当にとんでもなく、代々伝わった王家の最後にふさわしく……」とだけ答え、そのまま寝台の傍らに倒れた。

86. 蛇は、無花果の実とはっぱに隠して持ち込まれたのだと言われている。クレオパトラは、気づかぬままにこの身に蛇が取りつくよう仕込んでおけと命じていたのだが、無花果を幾つか取り上げた時に蛇を見つけてしまい、「ああ、いた」と言って、腕をまくり、咬ませるために差し出したと言う。だが諸説あり、蛇は水瓶に隠されていて、女王は自ら黄金の糸紡ぎを使ってそれをつつつき、怒らせて、自分にとびかかるよう仕向けたのだともされる。真相は藪の中である。さらに、中を空洞に作った櫛に毒薬を入れ、その櫛を頭髮の中に隠していたとの説もある。何にせよ、外傷も、毒の影響も、表には現れなかった。また蛇を室内に見つけることもなく、部屋の窓の先にある海岸に、蛇の這った跡を見たものの、はっきりしないが、女王の腕に小さな二つの咬み傷があったのだと言われた。シーザーも、こうした噂を信じたようだった。なぜなら、勝利の祭典において、彼はクレオパトラの像を用意させ、その身に巻きつく蛇を象らせたためだ。以上が、事の顛末として言われている。シーザーは、女王の死を前に心をいため、彼女の誇り高く気高い最期に敬意を示して、女王にふさわしい盛大な葬儀を執り行った上、アントニーと共に埋葬することを命じた。また、シーザー自身の指示により、二人の侍女にも丁重な弔いがなされた。クレオパトラの最後は三十九歳、在位は二十二年間で、そのうち十四年以上をアントニーと共に統治した。アントニーの没年は五十六歳、あるいは五十三歳だったとされている。



Fin.

<スペシャル対談>

うずめ劇場主宰

ペーター・ゲスナー

×

阪本浩

青山学院大学文学部長



阪本 浩

青山学院大学文学部長。ローマ古代史、西洋史を専門とし、古典に親しむ面白さ、重要性を説く。「3日でわかるローマ帝国」「ローマ帝国一五〇〇年史」等著書多数。今夏、E.ゴールズワージー著「アントニウスとクレオパトラ」の完訳を著した。

〔ゲスナー〕阪本先生はなぜゴールズワージーの『アントニウスとクレオパトラ』を翻訳しようと思ったのですか？

〔阪本〕日本でクレオパトラというと“エジプトの女王”ということが強調されますよね。ヘアスタイルから服装までいかにも“エジプト風”に描かれます。しかしこの本では、必ずしもそうではないという点を強調していました。クレオパトラのヘレニスティックな、ギリシャ的な面を今まで以上に強調しています。このことを日本にも紹介すべきだと思って翻訳を行った次第です。

〔ゲスナー〕他に、翻訳しながら改めて気がついたことはありますか？

〔阪本〕『世界史』という観点ではなく、アントニーやクレオパトラが生身の人間として描かれていることも、惹かれた理由の一つです。

〔ゲスナー〕ステレオタイプのイメージではなく、もっと具体的な、二人がどんな人間だったのか。

〔阪本〕そうです。歴史上の人物というと、いわゆる理念を求めているように描かれますよね。ところがゴールズワージーは、アントニウスにもクレオパトラにも政治の目標や理念があったとは思えないという風な考え方を示しています。

〔ゲスナー〕私たちは、シェイクスピアが描いた『アントニーとクレオパトラ』とプルタルコスが著した『英雄伝』における、アントニウス像の違いをお客さんにも知ってほしいと思って、一部抜粋して翻訳したものを無料配布します。人物像への注目、古典的なステレオタイプとは違う描き方という点では、阪本先生と共通する部分があると思います。

〔阪本〕そうですね。私が改めて思うのは、シェイクスピアのこの作品って、本質的な部分では、かえって真実、現実により近いのかなという

感じですよ。逆に、シェイクスピア劇を専門に観ている方たちに訊きたいのですが、シェイクスピアの描いているクレオパトラはエジプトらしさが強調されているのでしょうか。周りのローマ人たちが彼女のことを言うセリフには『エジプト女』という言い方をしていますけど、本人そのものはそんなにエジプトっぽくないような気がしますけど。

〔ゲスナー〕私が思うに、彼女は自分でエジプトらしさを使わないといけないときはエジプトらしさを使っている。たしかに歴史的に見たら彼女はギリシャ人ですね。私の理解ですが、エジプトっぽく振る舞う、ギリシャっぽく振る舞うというより、女の“自由さ”、“自信”の中で生きているかもしれない。もしかしたらナイル川の天気や季節、自然が彼女をそうさせているのかもしれないと思います。それをローマの男たちは、怖いとかおかしいとかローマ的ではない！とか。アテネのギリシャ人たちとも違う、変わった生き方をクレオパトラはやってるし、“使って”いると思います。ところで、彼女の神様はイシスですね。彼女自身もシーザリオンを産んだ後で、服装もイシス風になっていきます。

〔阪本〕イギリスのフレッチャーという歴史家が書いている本の中では、ゲスナー先生が仰ったように、クレオパトラはイシスの化身であるという面が強調されています。ローマとは違う自由な、エジプトの古い文化を体現して、そういう世界を作りたかったという風に書いてあります。

〔ゲスナー〕作りたかったのか、もしくは引き延ばしたかったのかということですね。

〔阪本〕そうですね。ちょっと前に出たステイシー・シフという作家が書いた『クレオパトラ』という本はまたまったく違って、自由な自立し

た女性という描き方をしています。

〔ゲスナー〕 ユリウス・サーマンの批評を読んだら、このゴールズワージーの書き方とシフの書き方は正反対で、両方読むと面白いという風に書いてありました。(笑)

〔阪本〕 そう思います。(笑)

〔ゲスナー〕 さっき言っていた「シェイクスピアの方が現実的」というのは面白く思いました。

〔阪本〕 やっぱり現代の歴史家が現代の観点から世界史を考えるより、シェイクスピアの方が本質的なところを描いているような気がします。

〔ゲスナー〕 特にそう思ったシーンはありますか？

〔阪本〕 恋愛の感情についてです。政治の野望のためにというより、アントニウスにもクレオパトラにも情熱があって、それが中心になっているのかなと感じます。政治のために恋を利用するというより、恋のほう先にあるという。

〔ゲスナー〕 私も賛成です。

〔ゲスナー〕 私はこの芝居を読むと、日本の武田騎馬軍団の末路を連想します。日本の伝統的社会の中で、サムライは明確なルール、ある意味で人間らしい“約束”の中で戦っていたのに、織田信長が出てきたところで、鉄砲によってその伝統的な人間世界の枠を壊していった。私はこのテーマが芝居の中に入っていると思っています。特にオクタヴィアス・シーザーは、アントニーやレピダスに対してウソツキ風なやり方で動いています。つまり、現代におけるプロパガンダのようなやり方が、シェイクスピアによって描かれている。今までの、“約束”の中で生きていた人間(アントニー、クレオパトラ、レピダス、ポンペイ、ドラベラ等)は死ぬしかなくなりますね。

〔阪本〕 大局的に見るとそうですね。共和制紀(Republic)っていうのは一人ひとりが独立した政治家で、みんなで競い合うわけです。それをオクタヴィアヌスは一つにまとめてしまう。“みんなが独立した政治家”という認識はアントニウスとクレオパトラ以後消滅していきます。それは元老院議員たちの新しい生き方の始まりなんですね。オクタヴィアスの言葉として有名な『フェスティナレンテ(Festina lente)』。ゆっくり急げ。養父のユリウス・カエサルはその改革を1,2年でやろうとして暗殺されました。しかしアウグストゥス(オクタヴィアス)はその実現に40年かけました。ユリウスのように「逆らったらどうなるか」というやり方ではなく、オクタヴィアスはじっくり時間をかけて、独立した存在だった元老院議員たちを自分の体制に従う貴族に変えていったんです。そういう、辛抱強い政治家、改革者としての一面があります」

ゲスナー「戯曲を読むとどうしても悪役ですが、時代の必要に合わせたという評もあるのですね」

〔ゲスナー〕 この芝居の一番の謎は「なぜクレオパトラは海戦で逃げ出したのか？」というところだと思います。アントニーもクレオパトラを追って逃げ出します。誰が勝つか、はっきり決まっていのに、二人はなんで逃げ出したのでしょうか？

〔阪本〕 この時点で既に勝敗は決まっていたという解釈が有力です。海戦が開かれる前に、オクタヴィアヌス配下のアグリッパが見事な作戦で先回りして、アクティウム湾にアントニウスとクレオパトラの軍を完全包囲してしまう。その時点で戦いは終わっていたんです。だからアントニウスとクレオパトラの艦隊は、遠征で得た財宝を持ってなんとか脱出

ペーター・ゲスナー

うずめ劇場主宰、演出家。旧東ドイツ、ライプツィヒ生、調布市在住。壁崩壊後、妻子を伴って北九州市に移住し、地域と結びながらうずめ劇場を旗揚げ。今秋、劇団20周年を飾る公演に、シェイクスピア「アントニーとクレオパトラ」を選んだ。



して、アレクサンドリアに帰ろうとした。それがアクティウムの海戦だと言われています。海戦は当時、マストをはずして櫂を漕ぐことで行われていたのですが、クレオパトラたちの船は帆を積んだままだったと残っています。そのため、クレオパトラたちは海戦をやるのではなく、好機を見て帆を上げ風によってアレクサンドリアに行こうとしていた、と考えられています。



〔ゲスナー〕リアルですね。演劇人としての考え方ですが、お客さんがこのシーンを見たらまず謎だろうと思います。直前のシーンでクレオパトラは「男として戦う」と言ってるのに、そのすぐ後で急に臆病に逃げた。この「逃げる」という要素もこの芝居の中で何度も出てきます。最後のアントニーとクレオパトラの自殺も「逃げた」という読み方ができなくもない。ならばこの二人は何からそんなに逃げようとしていたのか？ オクタヴィアス・シーザーはクレオパトラを凱旋行進に出したがっています。クレオパトラはこの凱旋行進に絶対出たくないと言っています。だから逃げる(死ぬ)。凱旋行進には何の意味があったんですか？

〔阪本〕まず、凱旋式が行われるのは基本的に外敵、外国との戦いです。その外国の敵の大将が行進の中に示されてローマの勝利が最高神ユピテルに報告されるという、そういう式典です。だからローマ側からすれば敵の大将が凱旋式に出てくれないと完結しないわけです。

〔ゲスナー〕これは大事ですね。

〔阪本〕しかも、オクタヴィアスからすればそれは是非、政治的に必要です。この戦争はアントニウスというローマ人の同胞との間に起こった

権力闘争、内戦ではないということをお願いしたいわけです。あくまでクレオパトラという、エジプトの、東洋の女王がローマに対して挑戦してきたから、ローマという国、文明を守るために戦ったという形にしたい。で、アントニウスは自国を裏切ってクレオパトラに仕えた裏切り者だというイメージを作りたかった。

〔ゲスナー〕なるほど。

〔ゲスナー〕アントニーが自殺するシーンを読んだ時に、三島由紀夫を思い出しました。三島は割腹自殺の際、介錯役が下手で何度か打たれて、ずいぶん苦しかったそうです。死にたいけどなかなか死ねない。真面目さの中で不思議なユーモアも入ってますね。それで、三島もアントニーに近いなという連想が始まりました。古い世界では軸にあった人間らしさが、他の物に押しのけられていくことへの反抗。他に例えば、安部公房も『友達』の中で「一緒に生きる」という古い日本の生き方が、段々プライバシーの問題によって失われていくことを嫌がっています。戦後の大きな変化の中で悩んだ日本人達のように、アントニーもクレオパトラもある意味「自分の時代は終わった」という意識があったと思います。

〔阪本〕あったでしょう。エジプトだけではなく、例えば有名なところでは、ユダヤのヘロデ王も同じ立場でした。「生き残るためにはオクタヴィアヌスに従う。でないと生き残れない」と。ですからヘロデは、ユダヤの真ん中にローマ皇帝の名前をつけたヘレニズム風の都市を作るじゃないですか。ユダヤの伝統からしてみれば憎まれるようなことをしても、ローマに阿(おもね)って生きていかなければならなかった。

〔ゲスナー〕シェイクスピアはこの芝居をだいぶ年齢が上になってから書いています。そのときもちょうどイギリスでは演劇が禁止になる時代もはじまります。そういうシェイクスピア自身の演劇の闘い、ファイトがあったと思います。これまでに築いたスタイルとは違うやり方で、特に従来の芝居のように個人的な問題を取り扱うのではなく、もっと社会的な問題を扱ってます。世界の動きの一種のモデルケースのように。時空間の使いかたも新しい。演劇人としてはホラーですよ。なにしろ芝居の始まりから終わりまで10年間あります。場所はジェームズ・ボンドの映画のようにどンドン色々な場所に行きます。演劇の全部の法律を壊しているみたい。

〔阪本〕素人の目線から見ると、シェイクスピアはプルタルコス英雄伝で描かれている物語全体を凝縮して、この戯曲を書いたのではないかと思います。どこか一部分だけ抜いたのでは面白さが伝わらないから全体を、二人の出会いから死ぬまでをひとつの話にしてと思ったのではないかと思います。

〔ゲスナー〕もちろんそうですね。

〔阪本〕“逃げる”ということも、まったくの素人考えですが、恋する恋人同士って、とにかく逃げたくありませんか？(笑)

〔ゲスナー〕 Romantic ですね！

〔阪本〕 そういう感じをシェイクスピアの物語から感じました。

〔ゲスナー〕 エジプトも日本と同じで季節文化だと思います。夏の後に冬が来る。そしてまた夏が。生の後に死があり、でもまた生が。エジプトのイシス神もそういう教えだったと思うのですが。この芝居のラストの 40 分間はぜんぶお墓の中(霊廟)のシーンですね。これは次の世界への出発という意味でしょうか。

〔阪本〕 プルタルコスの記事にも最後のやり取りはすべて霊廟の中で起こったとあります。ただそれをイシス女神に直接結び付けるのはなかなか複雑だと思います。というのはクレオパトラが信じていたイシス神は本当にエジプトのイシスだったのか。むしろヘレニズム世界に広がっていたヘレニズム風のイシスだったのではないかという考え方もあります。今までのギリシャやエジプトやローマの神と違って、もう少し普遍性のあるユニバーサルな神様として、イシスが当時の世界で広まっていたと言われております。殆ど一神教になっていくような。キリスト教布教の先駆けという説もあります。

〔ゲスナー〕 私が思うのは……このクレオパトラも結局エジプトに住んでいて、エジプト人たちと一緒にいて、エジプトの自然と一緒に生きている。自然のぐちゃぐちゃした中で生きていて、それは彼女の生き方や振る舞いにも反映されている。

〔阪本〕 なるほど。確かに、プトレマイオス王朝は 200 年くらい続いたんですが、その王朝の中でエジプト語を話した君主はクレオパトラだけだったと言われてます。他の君主はギリシャ語やマケドニア語しか話さなかった。誰もエジプトの言葉を覚えようとしなかった。クレオパト

ラが初めてだったんです。

〔ゲスナー〕 やっぱ、クレオパトラはエジプトの人たちのことを考えていた女王だったんですね。

〔阪本〕 僕がシェイクスピアのお芝居の中で納得がいかないのは、妻のフルヴィアとオクテーヴィアの扱いなんです。(笑) アントニウスはもっと二人のことも大事にしている、二人も彼を愛していたと思うんです。

〔ゲスナー〕 本に書いてありますか。

〔阪本〕 私の願望ですが。(笑)

〔ゲスナー〕 私も色んな経験として、どの女性に対しても本気だったと思います。(笑) 劇中のアントニーは、女性たちに対してもシーザーに対しても、面と向かって言うべき意見をきちんと言うんですよ。そして聞こうとする。でもオクタヴィアス・シーザーは、実際はどうだったかわかりませんが、芝居の中ではすべてのことを自分の良い方に持って行ってらるんですね。

〔阪本〕 まさにそれは大賛成です。ゴールズワージーの本にもありますが、オクタヴィアヌスとその周りは情報操作をすごくうまくやっているとされています。

〔ゲスナー〕 信じられないくらいまいですね。プロパガンダやマニピュレーション(情報操作)は別の単語を使ったらウソツキですよ。

〔阪本〕 そうですね。その情報操作がヨーロッパ文明を生んだと言っても過言ではない。

〔ゲスナー〕 フフフ、では私はそのウソツキの一人ですが、人間が、自然と共に生きながら、人間同士面と向かって意見し合った時代を懐かしく思います。情報操作の巧みさが世界を制圧する時代、芸術家として『自分の時代は終わった』などと、つい共感してしまいます。シェイクスピアの時代にもやはりそれは風潮とし



て感じられていて、この作品の原動力になったんじゃないかな。

〔阪本〕 オクタヴィアヌスの情報操作に一番協力したのがウェルギリウスとかホラティウスなどヨーロッパ文学のはじまりと言われるラテンの詩人たちです。この芝居にも出てくるミシーナスがオクタヴィアヌスの命を受けて、この詩人たちに、体制を強化するような詩作をさせていくわけです。その中でクレオパトラには、現代まで続く“エジプト女”のイメージがついたと考えられます。

〔ゲスナー〕 なるほど。

〔阪本〕 あと、一つおまけで。本のあとがきにも書いていますが、その後のローマ皇帝たちはオクタヴィアヌスの直系ではなく、アントニウスの子孫になっていくんです。結局はアントニウスの勝ちなのかな。(笑) いかにも情報操作して皇帝になっても子供は残らなかったと。

〔ゲスナー〕 やっぱ、芝居と実際にあったことの間にも色々な繋がりがあるみたいですね。演劇人として勇気が湧きました。ありがとうございます。

〔阪本〕 こちらこそ楽しい時間でした。ありがとうございます。

2016年7月15日収録

筆：布施有菜

ゆかりの方々からお祝いのメッセージをいただきました。

一部だけご紹介させていただきます。ありがとうございました。

佐藤信様より

東の夢 西の夢

ーうずめ劇場二十周年にー

「夢は夜ひらく」と誰かが暗くうたっていた
かれこれ半世紀も前になる
極東の島国で
夢は真昼にこそふさわしい
といきまいて
河原乞食の真似ごとをはじめた小僧の夢が
はるか海の彼方
西の国の誰かさんの夢と共鳴した
そして二十年前
誰かさんはこの島国にやって来て
九州の地で「うずめ劇場」を旗揚げした
西も東もあるものか
夜も真昼もあるものか
夢によって夢を断ち切る
誰かさんと一統の挑戦は
さまざまな場を渡り 巡り
今日も明日もまだまだつづく
顔をあわせればいつも「にやり」
同志 もうちょっとだけ先へ ね

坂手洋二様より

ペーター・ゲスナーさんと初めて会ったのは、まだペーターが九州にいた頃だった。十年以上前だろうと思うが、高校演劇九州ブロックの審査員をしたときの、生徒たちに熱く語る姿が、忘れられない。東京に来てから、もっとご一緒する機会が増えるかと思っていたが、お互い忙しすぎてなかなか話ができないでいる。とにかくペーターに会うとエネルギーをもらう。この熱血漢を、日本演劇は、もっともっと生かすべきである。私も、もっともっと彼と遊びたいと思う。

ザ・ニューズペーパー

福本ヒデ様より

20 年前、ペーターさんに北九州で会った。
初めて会ったドイツ人、異国のプロの演出家、
ペーターというベタな名前。すべてが魅惑であった(笑)。しかも、日本のアングラの戯曲を研究する為にお寺で演劇をやるという。
あの時、黒船ペーターの情熱と執念に巻き込まれて本当によかったと、今の所、思っている(笑)。
嬉しい事に、劇団 20 周年の祝福コメントを書かせてもらっている僕も、東京のステージの上にいる。
皆様、演劇モンスターペーターをゲットしに、
両国に GO ! (笑)
おめでとうございます。

武石守正様より

20 周年おめでとうございます。
私がうずめ劇場に正式に在籍していたのは 99 年から 2 年間という短い間でしたが、濃密な時間を過ごしたように思います。私が入団してから退団する間際まで、劇団員はペーターを含めて 5 人。男優は私だけという小さな劇団でした。日本人の常識にとらわれないペーターの発想と行動力は、小さな劇団には似つかわしくない程の創造力溢れる旅に私達を連れて行ってくれました。それは、しばしば私達を啞然とさせ全員の反対にあっていましたが。
私もうずめ劇場も、道は違ってしまいましたが幸運にも、今なおそれぞれに旅を続けられています。ならば、ここでは思い出話ではなく、今も旅を続ける友として、新たな挑戦を続けているペーター、そしてペーターと共に旅を続けている友人達にエールを送らせていただきます。

bon voyage !

うずめ劇場のメンバーより、ヒトコト！

松尾容子

うずめ劇場が 20 年続いたことは、とてもうれしいし、北九州時代、「わたしの演劇を見たい人は誰もいない」と肩を落としていた頃のペーターを思うと、今、東京でたくさんのお客さんの前で芝居ができるのは、ある意味奇跡的なことだと思います。ペーターのエネルギーが周りを巻き込んで、幸運な偶然を積み重ね、それはもしかして運命なのか、運命を凌駕したのかわからないけれど私にも、希望と勇気を与えてくれました。大変でしたが、楽しい 20 年でした。支えてくれた、たくさんの皆さん、陳腐なことしかいえませんが、心から、ありがとう！

後藤まなみ

20 周年公演。その中の半分近くはこのうずめ劇場で過ごしました。ここで学んだ事、ペーターゲスナーから学んだ事、ここで出会った人から学んだ事、一緒に切磋琢磨して結果をだしてきたこと、それらがどこにいても私の演劇の根になっています。短くとも濃い。色々な事がありました。人生でもこんな事が起きるなんて考えてもなかった事も起きました。でも演劇だけは今の所続けられています。私はペーターゲスナーから「私と演劇一緒にしましょう」と笑顔で声をかけられうずめ劇場に入りました。ペーターゲスナーと出会えてよ

かった。最初がペーターゲスナーで本当によかった。最初がうずめ劇場で本当によかったと今では思います。ペーターゲスナー、うずめ劇場に出会わせてくれた事に感謝します。そして、ペーターゲスナー、一緒に頑張ってきた仲間、いつも支えてくれた友人、家族に感謝します。最後にうずめ劇場 20 周年記念公演「アントニーとクレオパトラ」にかかわって下さったスタッフ、出演者の方々、本当にありがとうございます。そして、チケットをお求めになって下さったお客様に心から感謝します。☆ありがとうございます☆ 全ての方々、出会った人々に感謝です☆

☆20 周年おめでとう☆



篠田竜

うずめ劇場の20年の歴史に私が参加したのはたったの1年ちょっとまえです。ペーターをふくめ劇団員と一緒に過ごすなかで気付いた多くのこと。その中で一番知りたくなかったこと、それは自分が現代の申し子だということ。

ペーター・ゲスナーがよく使うことばがあります。「つなぎ」。上と下、昔と今、東と西。アタマとカラダ。自分のこと、人のこと。なんでもわかったつもりでいたいワタシ。大きくなり過ぎた私のアタマを一度バラバラにして、カラダとのつなぎをとり戻す。

バラバラになった壁をあとにして、ペーターは日本にやってきたのだそうです。ゼロからつないで、つないで20年経ったのだそうです。

今、私がこうしてワタシ自身とのつなぎ、人とのつなぎをとり戻そうと闘える、そんなうずめとのつなぎに、そしてこれまでうずめを生かしてきた私の知らないあまたのつなぎに、感謝します。

藤澤友

ペーター、お疲れ様です。
この際だから言いますが、ペーターに出会えて良かった。演劇の泥沼に飛び込んで良かった。僕の中に当たり前に押し込められていて気付かないままだった、今の僕の視点で好ましくないと感じる色々のことを、演劇とペーター、つまりうずめ劇場は、わざわざ僕に分かるように僕から取り出しては僕に見せ付け、ことごとくぶっこわした。否、ぶっこわさせられた。友という僕の名には何やらいわくがあるらしいが、僕自身では、ペーターという友と出会えるための名前だったのだと決めている。
2000年から参加した僕は、かれこれ15年以上一緒にいる。色々あった。若気が至りまくっていたあの日々に、周囲にいてくれた大人達に感謝。
生意気な奴らを、敢えて受け入れようと努めて一緒になんかやってくれた大人の皆さん。その赦しと、忍耐と、なによりも勇気に。本当にありがとうございました。まだ、日本のどこかにいますよね。ならば、まだまだ、まだまだ、続くはずですよ。

ペーター・ゲスナー

20年間日本で生活と演劇仕事もして、日本で一番好きの何？
温泉好き（一番：黒川温泉）、焼き物と木材家具好きです、特に小石原の（九州の北方面）、そして伝統的な昔話の隠れた社会的な意味を気が付くのは好きです、例えば女の神様うずめの踊る話、天照大神危なくてわがままになって洞窟隠れたから（また九州、高千穂で）。
もしかして一番好きなのは日本の女の人、また男の人の好奇心、そして粘る力（九州だけではない）、特にこの外人旅人劇団で働くのは勇気、興味、意味感じた人々は、例えば山口恭子、江口靖、坪原ゆかり、武石守正、梅田剛利、岩井眞實、後藤ゆうみ、荒牧大道、五島朋子、藤原恵洋、深田稔、古村義明&敦子、白土様、四宮様、奥野様、桜井ますみ、坂本弘道、谷本仰、浜島さん、松下明&福本ヒデ、桜井大造、そして他他他、



うずめ劇場 第28回公演 / うずめ劇場 20周年記念公演
「アントニーとクレオパトラ」

原作:W・シェイクスピア
 松岡和子翻訳によるペーター・ゲスナー上演台本
 演出:ペーター・ゲスナー

<平成 28 年度 第 71 回文化庁芸術祭参加作品>



内野智

後藤まなみ

【劇場】東京・両国 シアターX カイ



住所:〒130-0026
 東京都墨田区両国 2-10-14
 両国シティコア 1階

TEL:03-5624-1181
 HP:http://www.theaterx.jp



受付開始:開演1時間前 開場時間:開演30分前
 お越しになった順番に入場できます。

- 電車でご来場の場合
 JR 総武線「両国駅」西口下車、左へ 徒歩約3分
 都営地下鉄大江戸線「両国駅」A4・A5出口 徒歩約8分

【キャスト】



松尾容子



大川潤子



小川剛生
 (演劇集団円)



上川路啓志
 (文学座)



佐藤滋
 (青年団)



薄平広樹
 (ブリッシマ)



はたやまよしみ



河内大和
 (カクシンハン)



原口紘一



篠田竜



小島彰浩



竹本優介



河村岳司
 (劇団AUN)



小林毅

【チケット取り扱い】
 日時指定・全席自由

●チケットぴあ:<http://t.pia.jp>
 電話予約受付:0570-02-9999
 Pコード:451-619

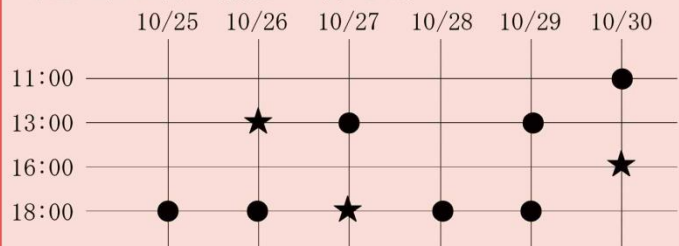
- うずめ劇場公式HP:<http://uzumenet.com>
 ※お振込みの後、郵送いたします。
 一口ごとに別途手数料がかかります。

【チケットお問い合わせ】

●Real Heaven Tel:03-5809-4023
 Mail:ticket@realheaven.jp

【チケット料金】

一般前売:4,500円 一般当日:5,000円
 学生:3,000円 (前売・当日とも)



★印の回では、主に聴覚に障害をお持ちの方を対象に、ポータブル字幕による観劇サポートを実施する予定です。ご希望の方は、チケット申し込みの際にその旨お申し出ください。メールでのご相談も承ります (info@uzumenet.com)

■スタッフ

ドラマトルク 松岡和子・布施有菜
 舞台美術 石原敬
 舞台監督 伊達一成(俳優座)
 衣装 月岡彩
 映像 浜嶋将裕
 照明 桜井真澄(東京舞台照明)
 音響 藤平美保子(山北舞台音響)

■助成

芸術文化振興基金

★団員一同、ご来場を心からお待ちしております。皆様お誘いあわせの上、お越し下さいませ★



株式会社メディカルセミナーズ

☆看護師向け研修会の企画・運営、動画サイト運営

セミナー運営のスタッフ募集!

連絡先: 042-486-0477

※出演者(松尾容子)も、運営スタッフとして活躍中!

medical seminars

メディカルセミナーズ

www.medisemi.com

〒182-0016 東京都調布市佐須町 3-11-3-3F TEL:042-486-0477

オフィシャルサイト <http://www.medisemi.com> 動画ライブラリー <http://kangodouga.com>

なのはな歯科医院

パートナー・ゲスナー

イチオシの素敵な歯医者さん!



〒182-0002 東京都調布市仙川町 3-9-7
エテルノ上原 1 F

TEL. 03-5314-0841

Let's enjoy ♪ Re FASHION



リ・ファッション ラボ

●不要な衣類で社会貢献

ご家庭で眠っている着るに合わない捨てるに捨てられない服を
送っていただき活用。

※詳細はサイトでご確認ください。



一般社団法人 日本リ・ファッション協会

E-MAIL: info@refashion.jp HP: <http://www.refashion.jp>

このガイドブックは、
広告主の皆様の応援に支えられて、
無料配布しております。

Guten Tag!



PAN MAKE UP SCHOOL



パンメイクアップスクール

[2017年4月スタート] ヘアメイク1年コース(週3回/月水金曜日/11:00~17:00)

[2017年3月スタート] メイクショートコース(21回or13回/火曜日/11:00~16:00)

[セルフメイクレッスン 1 Day] 毎週土曜日/90分/開催時間11:00~/ ¥5,000

[プロフィール写真撮影] 第2・3土曜日/60分/開催時間11:00~/ ¥3,800~

※ヘアメイク・プリント1枚・リタッチデータ付き

※その他、メイク海外研修コース(1ヶ月or1週間)がございます。いずれもメール、ホームページ等でお問合せ下さい。



パンメイクアップスクール 2017 年度生

入学受付中

資料請求・学校説明会・受付中!!

学校説明会 月・水・金・土曜日 13:00~

info@pan-make-up.com

株式会社ノニカジャパン
パンメイクアップスクール

〒107-0062 東京都港区南青山 3-8-7 ラ・トゥール南青山 2F

TEL:03-3405-0578

<http://www.nonika-japan.co.jp/pan-make-up/>



パンメイクアップスクール
ホームページ

セブンイレブン 調布仙川駅南店

